

## 第1部 博物館の概況

### 第2章 博物館の老朽化問題の現状と課題 —老朽化する施設設備とリニューアルの取組の遅れ—

杉長 敬治 (国立教育政策研究所)

#### 概要

本稿では、我が国の博物館が直面している諸課題のなかでも緊急性の高い課題の一つと考えられる施設設備の老朽化問題—深刻な問題ではあるが、世間では余り関心をもたれていない—について、平成25年度に実施した日本の博物館総合調査（以下、博物館総合調査）のデータを中心に考察した。

施設設備の老朽化に関する回答を分析し、①回答館の約7割が、施設設備の老朽化を認識し、老朽化対応（リニューアルの取組）が必要と認識していること、②建物が建築されてから15年程度を経過すると、老朽化を認識する館が増加してくるが、リニューアルが行われるのは、相当の年数（30年以上）が経過した後になる館が多いこと、③リニューアルが必要な館のうちリニューアル計画を策定し、工事を予定している館は約1割に過ぎず、6割を超える館で、リニューアル計画が策定されていないことを明らかにした。更に、リニューアルが完了した館とリニューアルが必要な館の経営資源の保有状況や事業成果の達成状況を比較し、④リニューアルが完了した館が、リニューアルが必要な館に比べ、特に優位な状態にはないこと、⑤リニューアルが必要な館のリニューアルの取組状況を見ると、リニューアル計画の策定に目途が立っていない館は、リニューアルの取組が具体化している館よりも経営資源の保有状況や事業成果の達成状況の面で劣っていることを明らかにした。経営資源の保有状況や事業成果の達成の面で相対的に低いポジションにある館では、リニューアルの取組が遅れ、施設設備の再生産が進んでいないことを確認した。

1970年代から2000年代初めに多数の博物館が開館した。今後、これらの館が順次抜本的な老朽化対策が必要になってくることから、老朽化問題はより深刻な事態を迎える。利用者の安全確保やコレクションを適切に管理していく上で、老朽化への抜本的な対応が望まれる。現在、自治体で公共施設等総合管理計画の策定が行われている。同計画の策定に当たっては、博物館の存続の是非や統廃合の在り方が検討されるであろうが、地域社会において果たしている博物館の機能を損なうことなく、計画が策定される必要がある。

**キーワード** 博物館, 博物館総合調査, 老朽化, リニューアル, 公共施設等総合管理計画

#### 留意点

- ・比率を示した数字は、四捨五入により表記しているため、合計した際に数値が一致しない場合がある。
- ・文部科学省の社会教育調査の数値を引用する際には、博物館の数に博物館類似施設の数を含めている。
- ・博物館の設置場所の人口は、平成25年3月31日時点の住民基本台帳の人口数である。

#### はじめに

##### (1) 公共施設の整備と博物館

我が国では、高度成長期以降、多くの公共施設（社会インフラを含む）が整備された。近年、施設設備の整備後30年以上の年月が経過し、経年劣化、機能劣化や性能劣化が進行している公共施設が増加していることが各方面で指摘されている。「公共施設に危機が迫っている」[1]との見解が現実味を増している。1970年代以降の博物館の爆発的とも言える拡大は、今後施設設備の老朽化問題が全国的に拡大していく素地とも言える。これまでの拡大の時代と異なり、我が国では、国と地方の財政事情は極めて悪化している。公共施設の老朽化進行と財政収入減少のジレンマを解決することが求められている。人口減少と高齢化が進展する中、公共施設の老朽化と投じることができる予算額の減少が同時に進行するという中で老朽化への対応が求められている。表1に、博物館総合調査の調査結果を基に、館の開館時期と主たる建物の建築時期を示した。1970年代以降に開館した博物館は、2258館中1924館（85.2%）を占めている。1970年代当初に開館した博物館には、2015年時点で開館後45年を経過する館がでてきた。1970年代以降に多くの博物館が開館したが、都市部から人口の少ない市町村へと、空間的な拡大があったことに特徴がある。この特徴は、老朽化問題を考える上で重要である。

##### (2) 博物館の主たる建物の建築時期

博物館の開館に合わせて建物を新築する館が多いが、全ての館が、開館時に建物を建築している訳ではな

い。開館以前に建築された建物を使用するケースや、開館後に建て替えるケースも見られる。博物館総合調査では、2258館中2192館が主たる建物の建築時期を回答している。老朽化が問題になる博物館の状況を見るため、表1に、博物館の開館時期別に、主たる建物の建築時期を示した。1663館（73.6%）が開館時期と主たる建物の建築時期が一致している（一致する館は太枠で囲っている）。主たる建物の建築時期が、開館時期よりも早い館は312館（13.8%）である。主たる建物の建築時期が、開館時期と同一時期の館と開館前の館を合計すると、1975館（87.5%）になる。開館後に、主たる建物を建築した館は217館（9.6%）である。1980年代と1990年代を見ると、開館した館は1297館（57.4%）、主たる建物を建築した館は1218館（53.9%）である。さらに、1970年代と2000年以降を加えると、開館した館は1924館（85.2%）、主たる建物を建築した館は1793館（79.4%）である。

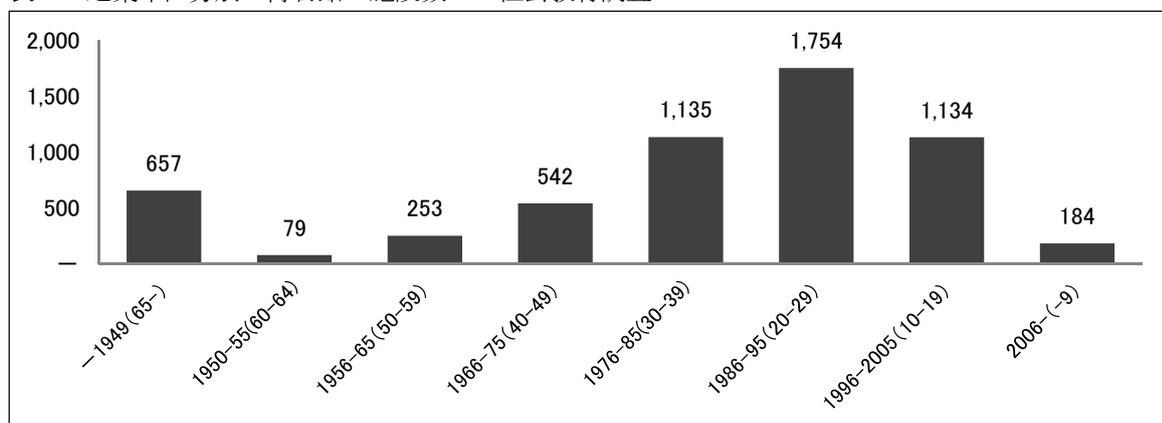
表1 開館時期と主たる建物の建築時期 —博物館総合調査— N=2258

		主たる建物の建築時期							総計		
		1949年以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年以降	無回答	館数	比率
開館時期	1949年以前	<b>39</b>	1	4	4	10	6	9	4	77	3.4%
	1950年代	12	<b>34</b>	5	11	13	16	4	6	101	4.5%
	1960年代	14	3	<b>94</b>	11	14	9	8	3	156	6.9%
	1970年代	31	7	10	<b>213</b>	17	20	14	6	318	14.1%
	1980年代	60	6	17	22	<b>458</b>	20	6	14	603	26.7%
	1990年代	38	2	4	8	20	<b>584</b>	15	23	694	30.7%
	2000年以降	12	1	5	9	8	23	<b>241</b>	10	309	13.7%
総計	館数	206	54	139	278	540	678	297	66	2,258	100.0%
	比率	9.1%	2.4%	6.2%	12.3%	23.9%	30.0%	13.2%	2.9%	100.0%	

文部科学省の社会教育調査では、博物館の建物の構造(建物の主要骨組の使用材料)と建物の建築年を調査している。博物館総合調査よりも回答数が多いことから、老朽化問題を考える上で重要なデータである。調査に回答した5738館の構造別の比率は、鉄筋コンクリート造が64.9%、木造24.8%、鉄骨造9.4%、ブロック造0.9%で、鉄筋コンクリート造が最も多い〔2①〕。鉄筋コンクリート造の法定耐用年数は47年(1998年度に改定)であることを考慮すると、建築後50年程度を経過しているかどうか、老朽化問題を考える上での目安になる。

表2に、建築年の区分別の施設数〔2②〕を示した。表2に示した年区分での集計が行われているため、1980年代と1990年代に建築された施設数を調査結果から確定することはできないが、1976-85年の1135館の1/2、1986-95年の1754館と1996-2005年の1134館の1/2を合計すると、2889館(50.3%)になる。この数字は、博物館総合調査の53.9%と同程度の数値である。本稿で使用する博物館総合調査のデータは、社会教育調査の数値からも妥当性があると言える。

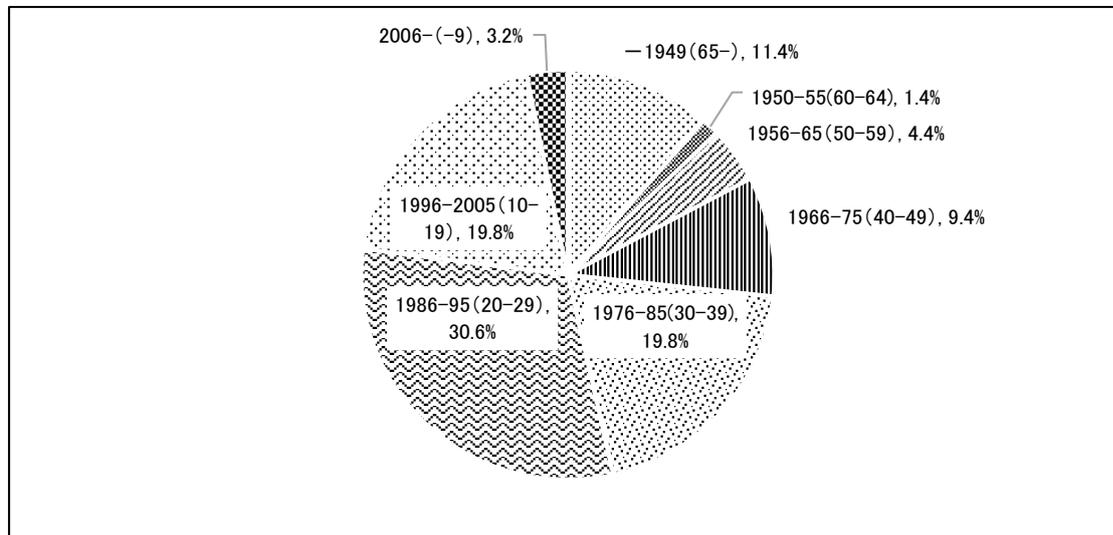
表2 建築年区分別の博物館の施設数 —社会教育調査— N=5738



(注) ( )内は、建築時から2015年までの経過年数を示している。

表3に、建築年区別の施設数(比率)を示した[2③]。建築時から2015年までの期間が50年以上(1965年以前の建築物)の館は17.2%(989館)、40年以上(1975年以前の建築物)の館は26.7%(1531館)である。建築時から30年以上(1985年以前の建築物)の館は46.5%(2666館)、建築時から30年未満(1986年以降の建築物)の館は53.5%(3072館)である。

表3 建築年区別の博物館の施設数(比率) —社会教育調査— N=5738



(注) 数字は、建築時期と建築時からの経過年数である。建築時からの経過年数は、( )内に示している。

表4に、建築後の経過年数の年数区別の施設数とその比率(シミュレーション)を示した。建築時から2015年までの期間が50年以上の館は989館(17.2%)である。現行の施設がそのまま移行することを前提に、建築後50年以上の施設数をシミュレーションすると、2025年には、2015年時点で40年以上50年未満の館542館が加わり、1531館(26.7%)になる。2035年には、2015年時点で30年以上40年未満の館1135館が加わり、2666館(46.5%)になる。建築時から30年以上経過する館は、2015年時点で2666館(46.5%)、2025年時点で4420館(77.0%)、2035年時点で5554館(96.8%)になる。シミュレーションにより、時間の経過とともに、リニューアルが必要な施設が膨大になっていくことがわかる。

表4 建物の建築後経過期間区別の施設数(シミュレーション) —社会教育調査のデータを基に作成—

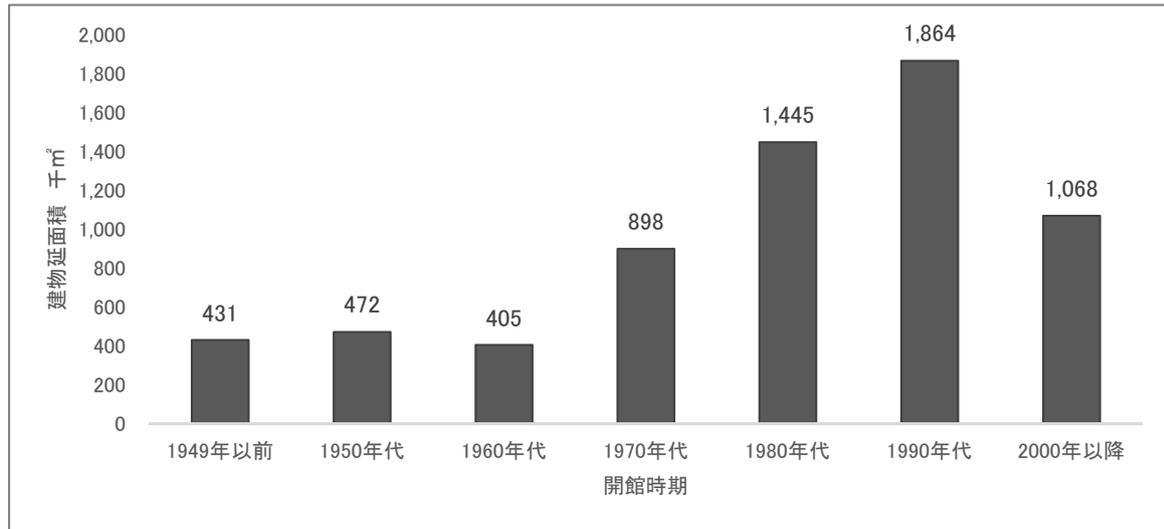
	2015年		2025年		2035年	
	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率
建築後50年以上	989	17.2%	1531	26.7%	2666	46.5%
建築後40年以上50年未満	542	9.4%	1135	19.8%	1754	30.6%
建築後30年以上40年未満	1135	19.8%	1754	30.6%	1134	19.8%
建築後20年以上30年未満	1754	30.6%	1134	19.8%	184	3.2%
建築後20年未満	1318	23.0%	184	3.2%		
総計	5738	100.0%	5738	100.0%	5738	100.0%

(注) 博物館の施設数・建物に変化がなく、調査時点の状態がそのまま推移すると仮定して算出した数値

### (3) 博物館の建物面積の状況 —総面積と開館時期別の面積—

我が国では、博物館の整備が進むに応じて博物館の建物の面積が飛躍的に増大してきた。表5に、博物館総合調査のデータを使用して、開館時期別の建物の延床面積の総計を示した。開館時期に当該博物館のすべての建物が整備されている訳ではないので、正確さには問題があるが、限られたデータから老朽化対策が必要な建物の延床面積を推計する上では許されるであろう。1980年代と1990年代に開館した博物館の建物の延床面積の総計は、6,582,434㎡中3,308,698㎡(50.3%)を占めている。開館年代区別の比率は、1949年以前は6.5%、1950年代は7.2%、60年代は6.2%、70年代は13.6%、80年代は22.0%、90年代は28.3%、2000年以降は16.2%である。今後老朽化対策が必要になる面積が増えていくことが、このデータからわかる。

表5 博物館の建物の延床面積 開館時期別の面積の総計 —博物館総合調査— (単位; 千㎡)



社会教育調査では、建物面積については、面積区分別の施設数のみ公表されている。建物面積区分別の下限面積と上限面積の平均値をとり、区分の最小の面積区分（150 ㎡未満）は 150 ㎡、区分の最大の面積区分（3000 ㎡以上）は 5000 ㎡として建物面積を計算して見ると、5738 館（5747 館から建物面積を有していない9施設を除いた施設数）の建物の延床面積の総計は 8,726,905 ㎡になる。我が国の博物館が膨大な建物面積を保有していることがわかる。この数値に博物館総合調査の開館時期別の施設数の比率を乗じると、開館時期別の建物延床面積が推計できる。

(4) 細る博物館経費の支出額 —文部科学省の「地方教育費調査」のデータから見た状況

表6に、文部科学省の「地方教育費調査」[3]のデータを使用して、自治体の博物館経費の支出額の推移（1998年度-2013年度分）を示した。16年間に自治体の博物館経費は大きく落ち込んでいることがわかる。2013年度の支出額（143,361百万円）は、1998年度（289,909百万円）の49.5%に過ぎない。資本的支出を見ると、2013年度の支出額（18,245百万円）は、1998年度（103,648百万円）の17.6%に過ぎない。国立や私立の博物館でも予算は減少傾向にある。財政の縮小は、新たな博物館の設置や施設設備の老朽化対策のための予算の捻出を困難にすることから、地方教育費の動向に十分留意する必要がある。

表6 地方教育費 博物館経費（都道府県・市町村の計）の推移 1998年度-2013年度 (百万円)

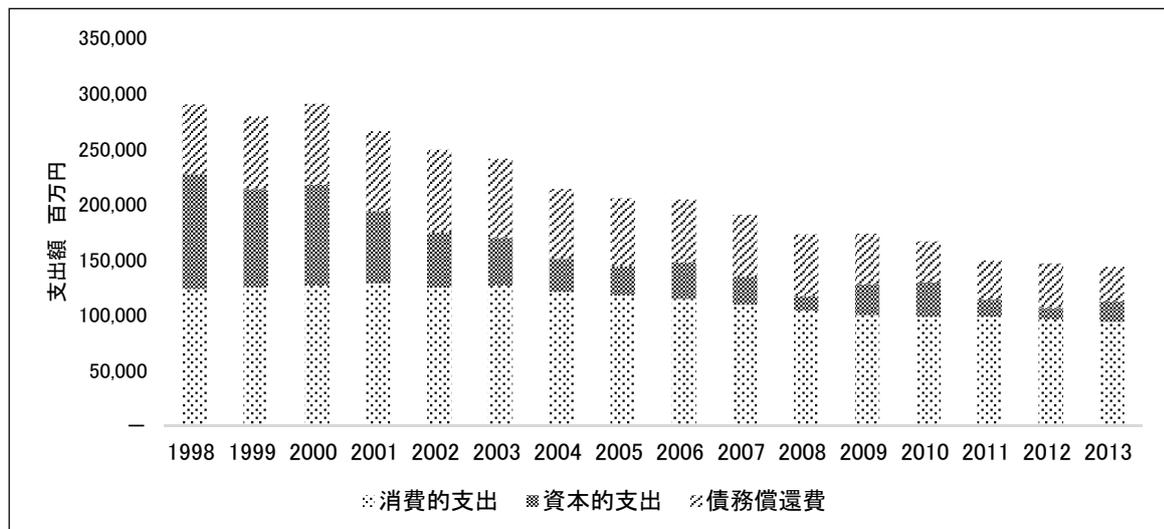


表7に、都道府県の博物館経費の支出額の推移を、表8に、市町村の博物館経費の支出額の推移を示した。都道府県の2012年度の支出額（48,642百万円）は、1998年度の支出額（113,898百万円）の42.7%まで

落ち込んでいる。2012年度の資本的支出額（1,168百万円）は、1998年度支出額（46,367百万円）の2.5%まで落ち込んでいる。

市町村の2012年度の支出額（97,888百万円）は、1998年度の支出額（176,012百万円）の55.6%まで落ち込んでいる。2012年度の資本的支出額（9,014百万円）は、1998年度支出額（57,282百万円）の15.7%まで落ち込んでいる。

自治体では、博物館の拡大（新設）どころか、再生産（リニューアル）も難しくなっていることを示す数値である。

表7 地方教育費 博物館経費（都道府県分）の推移 1998年度-2012年度（百万円）

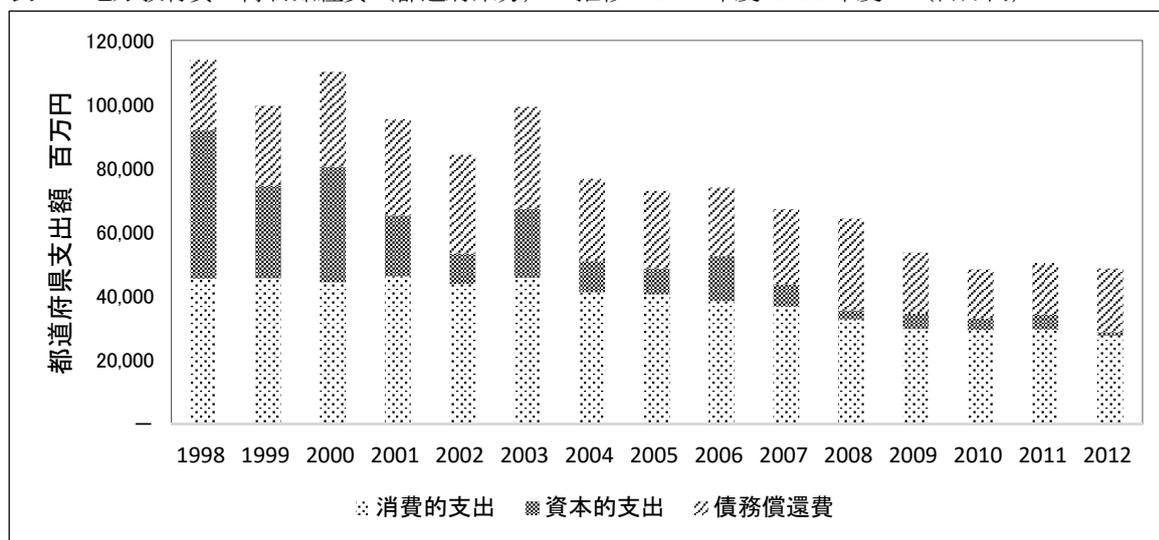
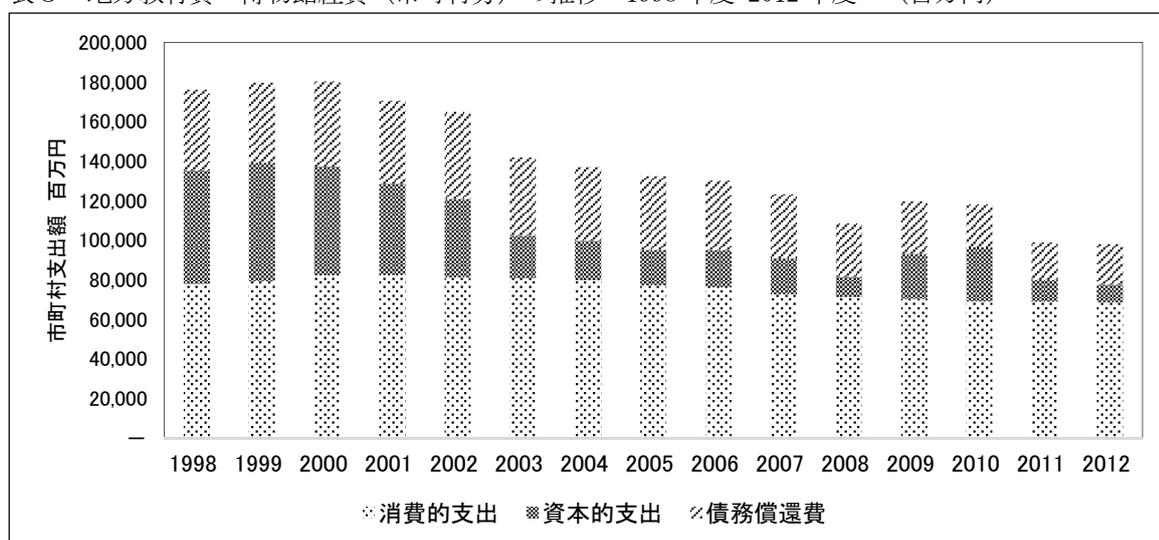


表8 地方教育費 博物館経費（市町村分）の推移 1998年度-2012年度（百万円）



### (5) 公立博物館をめぐる昨今の動向

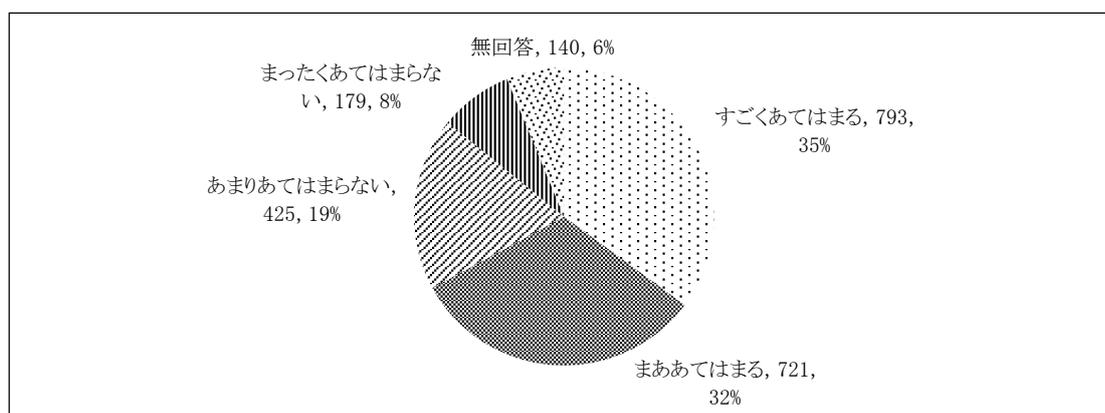
ここまで幾つかのデータで示したように、我が国では、1970年代以降、多数の博物館が全国各地に整備された。その多くは、小規模の自治体が設置した館である。70年代以降に開館した博物館が時間の経過とともにリニューアル時期を迎える。また、平成の市町村合併以前に、合併前の市町村で整備された博物館が、市町村合併後に余剰・重複施設として位置付けられる事例も見られるようになった。平成27年10月24日に開催したリニューアルとリスクコミュニケーションをテーマに開催したワークショップでも、政令指定都市になった浜松市の事例－浜松市では、既に多くの博物館が廃止され、建物も解体されている－の報告もあった。財政悪化による経費の削減や市町村合併は、老朽化問題を考える上で重要な要素である。

### 1 施設設備の老朽化についての認識状況

#### (1) 全般的な状況 —施設設備が老朽化していると認識しているのは約7割の館—

博物館総合調査では、博物館に、「すごくあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4つの中から回答を選択する方式で、博物館に、自館の現状認識を質問している。質問の中に「(貴館では) 施設設備が老朽化しているか」という項目がある。この回答を見ると、2258館のうち、「すごくあてはまる」と「まああてはまる」の2区分に回答した館(以下「あてはまる」館)は1514館(67.1%)になる(表9を参照)。約7割の館が老朽化を認識している。

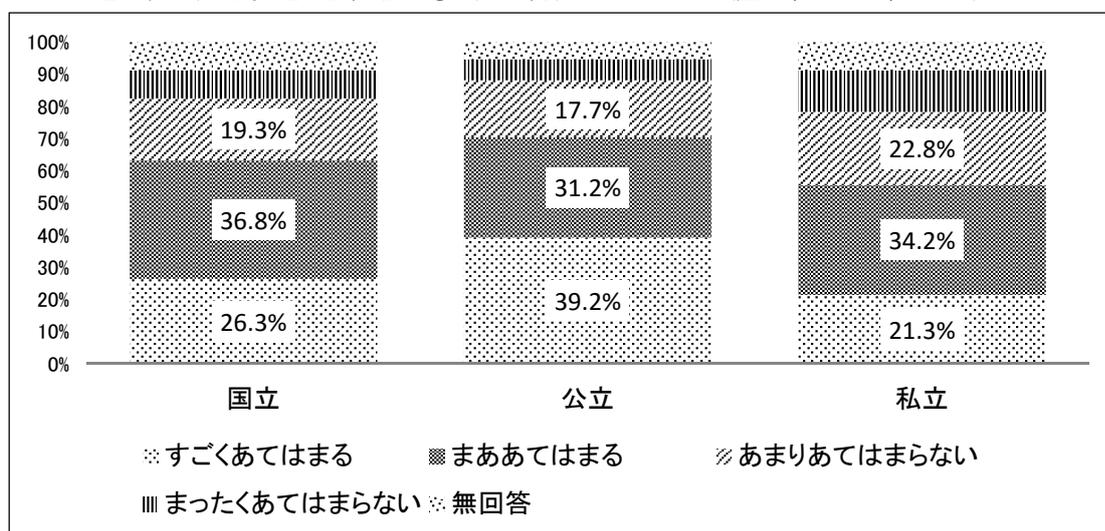
表9 老朽化の認識状況 —施設設備が老朽化しているか— 館数と比率 N=2258



#### (2) 設置者別の状況

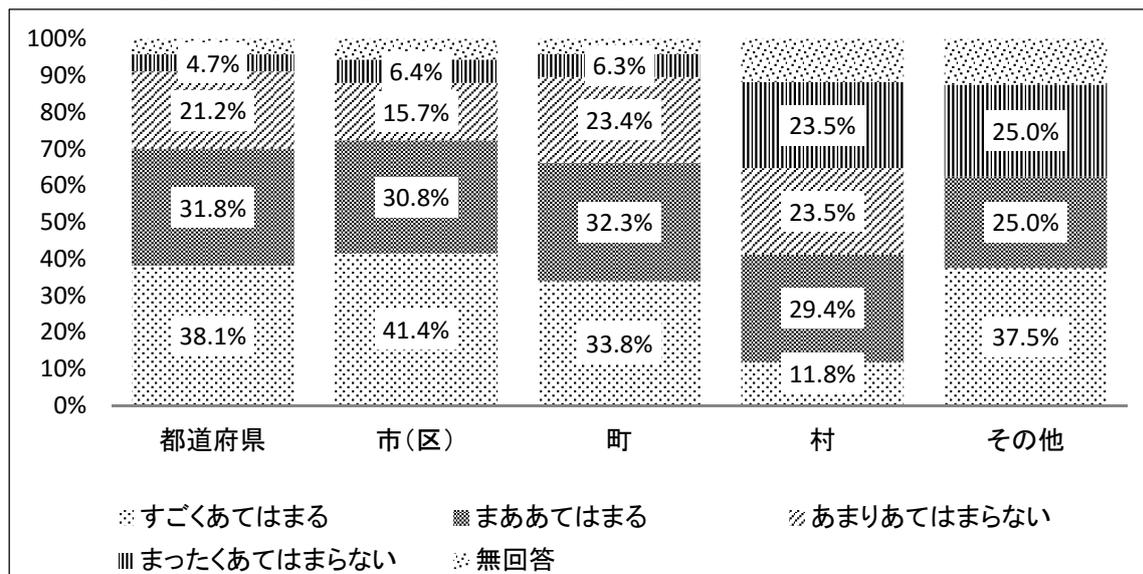
表10に、施設設備の老朽化の認識状況を、設置者別(国立・公立・私立)に示した。老朽化が「あてはまる」館の比率は、国立63.2%、公立70.4%・私立55.5%である。「あてはまる」館の比率は、3区分全部で50%を超えている。「あてはまる」館の比率が最も高い公立は、「すごくあてはまる」と回答した館の比率が39.2%と際立って高い。

表10 老朽化の認識状況 設置者別①(3区分) N=2258 (国57, 公1727, 私474)



回答のあった公立館は、2258館中1727館を占めるとともに、設置者である自治体の人口規模や財政力も多様であるから、表11に、より詳細な設置者区分で、施設設備の老朽化の認識状況を示した。表11の5区分を見ると、老朽化が「あてはまる」館の比率は、都道府県69.9%、市(区)72.3%、町66.2%、村41.2%、その他62.5%である。「あてはまる」館の比率が最も高い市(区)と最も低い村には、30ポイント以上の差がある。

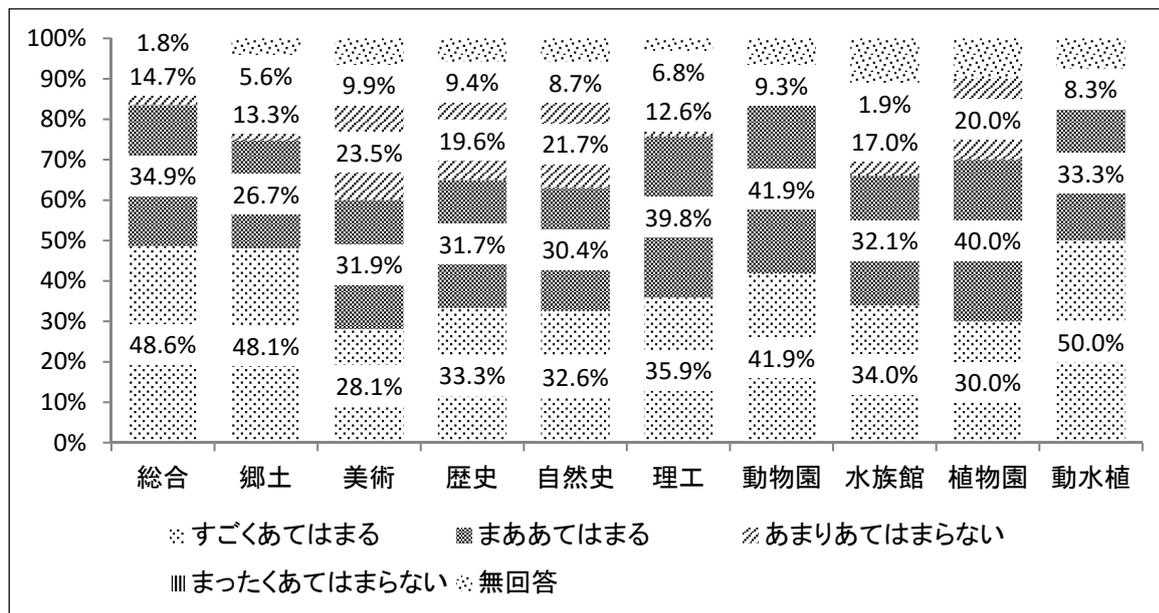
表 11 老朽化の認識状況 設置者別② (公立・5区分) N=1727



(3) 館種別の状況

表 12 に、施設設備の老朽化の認識状況を、館種別に示した。老朽化が「あてはまる」館の比率は、総合 83.5%、郷土 74.7%、美術 60.0%、歴史 65.0%、自然史 63.0%、理工 75.7%、動物園 83.7%、水族館 66.0%、植物園 70.0%、動水植物園 83.3%である。全館種で 60%を超えている。比率が最も高い動物園と最も低い美術には、20ポイント以上の差がある。また、総合、郷土、動物園、動水植物園の4館種では、「すごくあてはまる」館の比率が 40%を超えている。

表 12 老朽化の認識状況 館種別 (10区分) N=2258

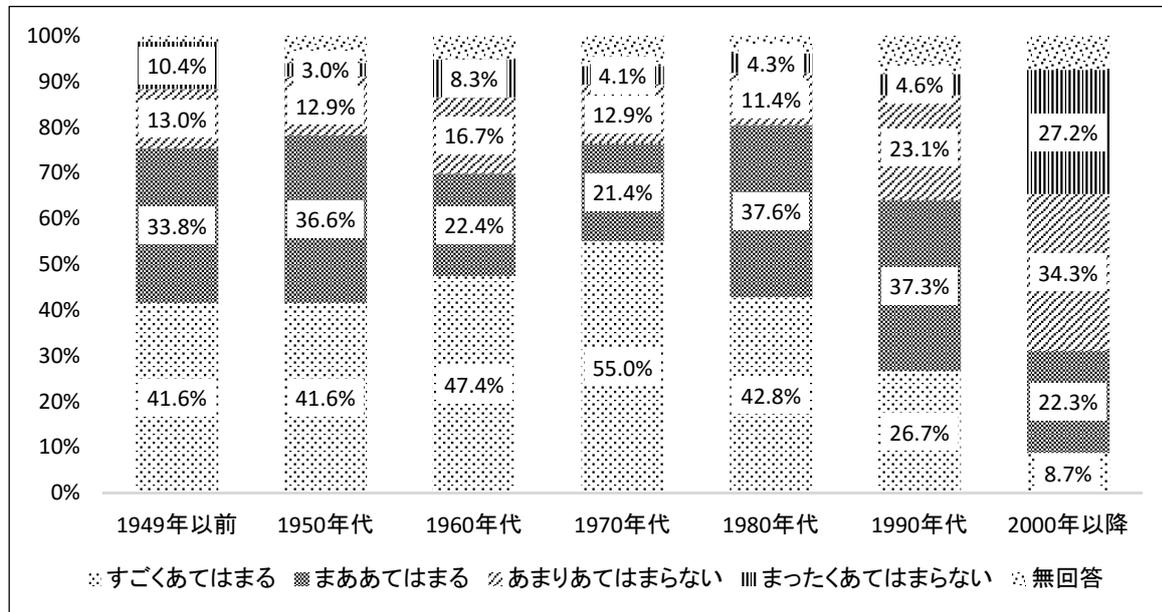


(4) 開館時期別の状況

表 13 に、施設設備の老朽化の認識状況を、開館時期別に示した。老朽化が「あてはまる」館の比率は、1949年以前に開館した館で 75.3%、50年代に開館した館で 78.2%、60年代に開館した館で 69.9%、70年代に開館した館で 76.4%、80年代に開館した館で 80.4%、90年代に開館した館で 64.0%、2000年以降に開館した館で 31.1%である。「あてはまる」館の比率が最も高い80年代に開館した館と最も低い2000年以降に開館した館には、50ポイント近い差がある。このデータから、老朽化が認識される時期としては、まずは開館後 15年

程度が目安になると考えられる。施設設備の老朽化は、開館時期からの経過年数の増大とともに高まるものであるが、リニューアルが行われると老朽化の認識はなくなる。老朽化が「まったくあてはまらない」館の比率を見ると、2000年以降の区分が27.2%で最も高く、次に高いのが1949年以前に開館した館の10.4%である。他の区分は、3.0%から8.3%の範囲にある。1949年以前に開館した館では、リニューアルが行われている館がある程度あるものと思われる。

表13 老朽化の認識状況 開館時期別（7区分） N=2258



(5) 老朽化の進行状況 —老朽化の認識状況の変化から見た老朽化の進行状況—

博物館総合調査は、平成25年度の前には平成20年度に実施されており、老朽化の認識状況について同様の調査を行っている。平成20年度と平成25年度の回答内容により、5年間の認識状況の変化を見ていく。2回の博物館総合調査に回答した館（1540館）のうち1433館が老朽化の認識状況を回答している。表14に、2回の調査の老朽化の認識状況を示した。平成20年度に、老朽化が「すごくあてはまる」と回答した館は479館あった。平成25年度には、479館のうち124館が「まああてはまる」、35館が「あまりあてはまらない」、10館が「まったくあてはまらない」と回答している。残りの310館（64.7%）は、平成25年度にも「すごくあてはまる」と回答している。平成20年度よりも改善した館は169館（35.3%）にとどまっている。また、平成20年度に「まったくあてはまらない」と回答した館は165館あった。165館のうち、平成25年度にも「まったくあてはまらない」と回答した館は44館（26.7%）である。平成25年度に「すごくあてはまる」と「まああてはまる」に回答した館は52館（31.5%）、「あまりあてはまらない」と回答した館を含めると、121館（73.3%）になる。5年の歳月が経過する中で、老朽化が改善した館よりも、老朽化が進んだ館の方が多いことが確認できる。老朽化問題では、時間が問題を解決する訳ではない。

表14 老朽化の認識状況 平成20年度と平成25年度の両年度回答館の状況 N=1433

		老朽化の認識状況 平成20年度回答				総計	
		あてはまる		あてはまらない			
		すごくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
平成25年度回答	あてはまる	すごくあてはまる	310	164	71	13	558
		まああてはまる	124	209	135	39	507
	あてはまらない	あまりあてはまらない	35	56	111	69	271
		まったくあてはまらない	10	13	30	44	97
総計		479	442	347	165	1,433	

表 15 に、5 年間が経過したことにより 1433 館の老朽化の認識状況がどのように変化したかを、開館時期別に示した。総計では、「あてはまる」館が 144 館増加している（921 館→1065 館）。

1949 年以前に開館した館と 60 年代に開館した館では、「あてはまる」館が減少している。1949 年以前に開館した館と 60 年代に開館した館の一部では、リニューアルが行われたのか「すごくあてはまる」館が減少している。

他方、50 年代に開館した館と 70 年代以降に開館した館では、「あてはまる」館が増加している。開館数が最も多い 90 年代に開館した館では、436 館中「すごくあてはまる」館が 65 館増加（70 館→135 館）、「まああてはまる」館が 10 館増加（168 館→178 館）、計 75 館（238 館→313 館）、17.2%（54.6%→71.8%）増加している。

1433 館の 5 年間の動向からは、リニューアルが行われず老朽化が進行した館が、リニューアルを実施した館を上回るため、全体では老朽化が進行していることが読みとれる。1969 年以前に開館した館は、2015 年時点で開館してから 46 年以上経過しており、鉄筋コンクリート造の法定耐用年数 47 年を経過している館がほとんどである。このため、老朽化が「あてはまる」館の比率が 7 割台、8 割台になっているものと推定される。施設設備の限界に近づいても、リニューアルができない館が多いことがわかる。

表 15 老朽化の認識 平成 20 年度と 25 年度の両年度回答館の状況 開館時期別（7 区分） N=1433

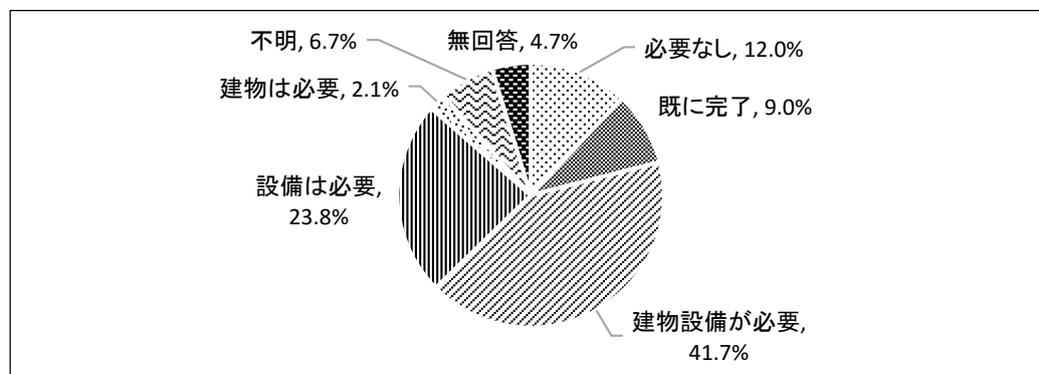
	回答時期 (平成)	あてはまる				あてはまらない				総計	
		すごく あてはまる	まあ あてはまる	計	比率	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	計	比率		
開館時期	1949年以前	25年度①	19	20	39	81.3%	7	2	9	18.8%	48
		20年度②	22	18	40	83.3%	5	3	8	16.7%	48
		増減①-②	-3	2	-1		2	-1	1		0
	1950年代	25年度①	31	28	59	86.8%	7	2	9	13.2%	68
		20年度②	28	18	46	67.6%	18	4	22	32.4%	68
		増減①-②	3	10	13		-11	-2	-13		0
	1960年代	25年度①	53	26	79	74.5%	17	10	27	25.5%	106
		20年度②	61	23	84	79.2%	18	4	22	20.8%	106
		増減①-②	-8	3	-5		-1	6	5		0
	1970年代	25年度①	133	58	191	82.3%	33	8	41	17.7%	232
		20年度②	127	61	188	81.0%	28	16	44	19.0%	232
		増減①-②	6	-3	3		5	-8	-3		0
	1980年代	25年度①	172	154	326	83.4%	46	19	65	16.6%	391
		20年度②	164	136	300	76.7%	75	16	91	23.3%	391
		増減①-②	8	18	26		-29	3	-26		0
	1990年代	25年度①	135	178	313	71.8%	102	21	123	28.2%	436
		20年度②	70	168	238	54.6%	151	47	198	45.4%	436
		増減①-②	65	10	75		-49	-26	-75		0
	2000年以降	25年度①	15	43	58	38.2%	59	35	94	61.8%	152
		20年度②	7	18	25	16.4%	52	75	127	83.6%	152
		増減①-②	8	25	33		7	-40	-33		0
	総計	25年度①	558	507	1,065	74.3%	271	97	368	25.7%	1,433
		20年度②	479	442	921	64.3%	347	165	512	35.7%	1,433
		増減①-②	79	65	144		-76	-68	-144		0

## 2 リニューアル（老朽化に伴う大規模修繕や改築）の必要性の認識状況

### (1) 全般的な状況 — 建物や設備のリニューアルが必要と認識しているのは約7割の館—

博物館総合調査では、建物や設備のリニューアル（老朽化に伴う大規模修繕や改築）の必要性について、「建物・設備とも新しくリニューアルの必要はない(以下「必要なし」)」「建物・設備ともリニューアルは既に完了している(以下「既に完了」)」「建物・設備ともリニューアルが必要である(以下「建物設備が必要」)」「建物はリニューアルの必要がないが、設備はリニューアルが必要である(以下「設備は必要」)」「設備はリニューアルの必要がないが、建物はリニューアルが必要である(以下「建物は必要」)」「現状が十分把握されておらず、よくわからない(以下「不明」)の6つの中から最も近いものを一つ選ぶ方式で質問をしている。表16に、回答状況を示した。2258館のうち、「必要なし」は270館(12.0%)、「既に完了」は203館(9.0%)、「建物設備が必要」は942館(41.7%)、「設備は必要」は538館(23.8%)、「建物は必要」は48館(2.1%)、「不明」は151館(6.7%)、「無回答」は106館(4.7%)である。「必要なし」と「既に完了」の2つに回答した館は473館(20.9%)、「建物設備が必要」「設備は必要」「建物は必要」の3つに回答した館は1528館(67.7%)、「不明」「無回答」の館は257館(11.4%)である。リニューアルの必要性を認識している館の比率は67.7%で、老朽化を認識している館の比率(67.1%)とほぼ一致する。

表16 リニューアルの必要性の認識状況 N=2258



### (2) 設置者別の状況

表17に、建物や設備のリニューアルの必要性の認識状況を、設置者別(国立・公立・私立)に示した。「必要なし」の館と「既に完了」の館の合計館数(以下「必要なし&完了」)とその比率は、国立9館(15.8%)、公立324館(18.8%)、私立140館(29.5%)である。私立の比率が最も高く、国立・公立とは10ポイント以上の差がある。

表17 リニューアルの必要性の認識状況 設置者別① (3区分) N=2258 (国57, 公1727, 私474)

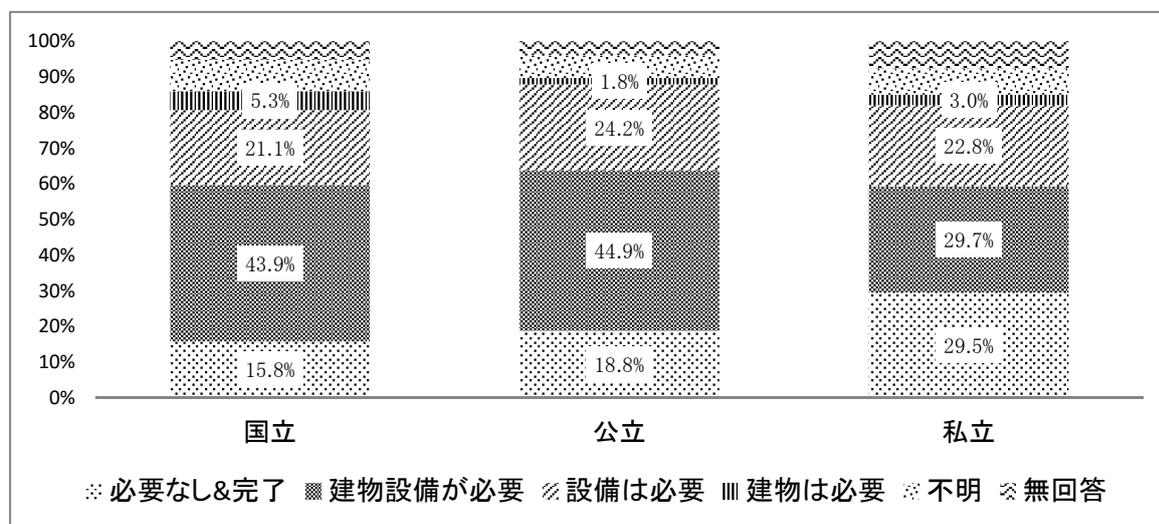


表 18 に、公立館を詳細な設置者区分で示した。「必要なし&完了」の館の比率は、都道府県 17.4%、市(区) 18.1%、町 19.7%、村 41.2%、その他 25.0%である。最も比率の高い村と最も比率の低い都道府県には、20 ポイント以上の差がある。村で、リニューアルが必要ない館が多いのは、他の区分よりも、博物館の整備時期が遅いため経年劣化が進んでいないためと考えられる。

表 18 リニューアルの必要性の認識状況 設置者別② (公立・5区分) N=1727

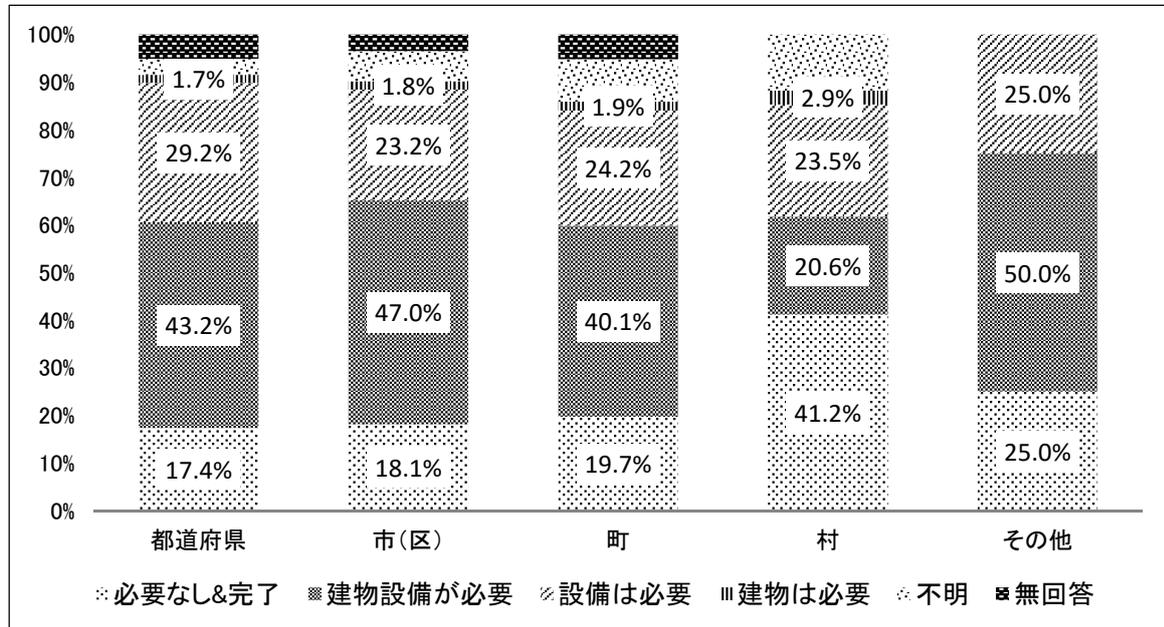
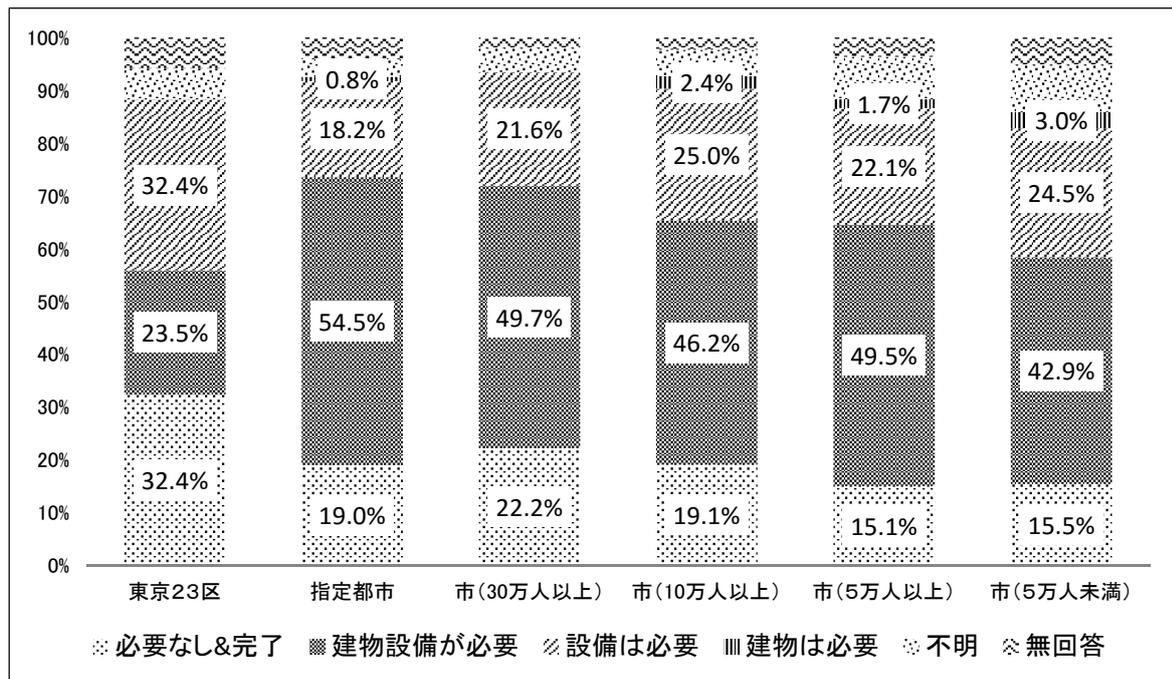


表 19 に、市(区)を、東京 23 区(特別区)、政令指定都市と市の人口規模による 4 区分の計 6 区分で示した。「必要なし&完了」の館の比率は、東京 23 区 32.4%、指定都市 19.0%、人口 30 万人以上の市 22.2%、人口 10 万人以上 30 万人未満の市 19.1%、人口 5 万人以上 10 万人未満の市 15.1%、人口 5 万人未満の市 15.5%である。「必要なし&完了」の館の比率が最も高い東京 23 区は、他の 5 区分のいずれよりも 10 ポイント以上高く、「建物設備が必要」は他の 5 区分よりも、20~30 ポイントも低い。

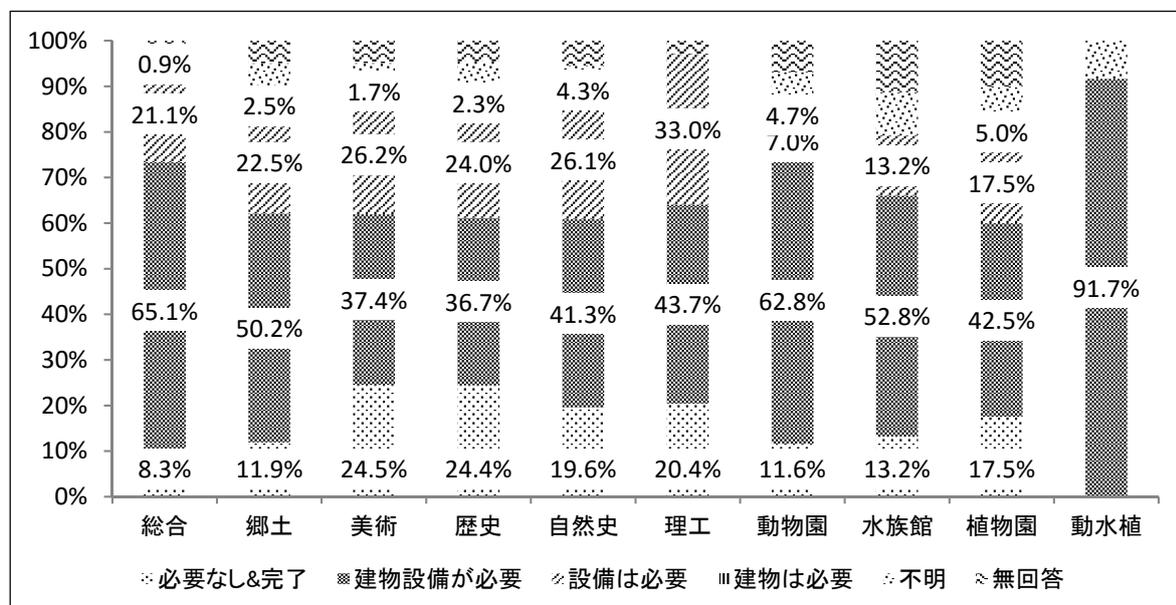
表 19 リニューアルの必要性の認識状況 設置者別③ (市(区)・6区分) N=1180



### (3) 館種別の状況

表 20 に、建物や設備のリニューアルの必要性の認識状況を、館種別に示した。「必要なし&完了」の館の比率は、総合8.3%、郷土11.9%、美術24.5%、歴史24.4%、自然史19.6%、理工20.4%、動物園11.6%、水族館13.2%、植物園17.5%、動水植物園0.0%である。比率が最も高い美術と最も低い動水植物園には、25ポイント近い差がある。「建物設備が必要」の比率を見ると、総合、郷土、動物園、水族館、動水植物園の5館種で50%を超えている。

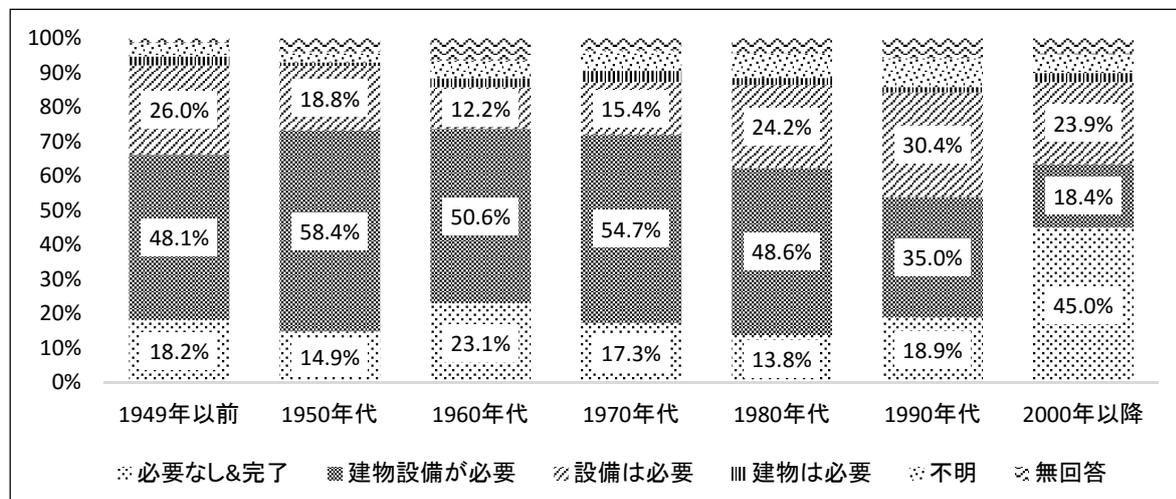
表 20 リニューアルの必要性の認識状況 館種別 (10 区分) N=2258



### (4) 開館時期別の状況

表 21 に、建物や設備のリニューアルの必要性の認識状況を、開館時期別に示した。「必要なし&完了」の館の比率は、1949年以前に開館した館18.2%、50年代に開館した館14.9%、60年代に開館した館23.1%、70年代に開館した館17.3%、80年代に開館した館13.8%、90年代に開館した館18.9%、2000年以降に開館した館45.0%である。比率が最も高い2000年以降に開館した館と最も低い80年代に開館した館には、30ポイント以上の差がある。80年代以前の5区分では、「建物設備が必要」の比率は5区分とも40%台・50%台である。60年代に開館した館は、ある程度リニューアルが行われているようで、「必要なし&完了」の比率が、90年代以前の6区分の中では最も高い。

表 21 リニューアルの必要性の認識状況 開館時期別 (7 区分) N=2258



(5) リニューアルが必要ない館とリニューアルが完了した館の状況

(2)から(4)では、リニューアルが必要ない館とリニューアルが完了した館を一括した区分(「必要なし&完了」)で扱った。(5)では、館種と開館時期の両面から見ることにより、リニューアルが必要ない館と完了した館の状況をより詳細に把握していく。表22に、(リニューアルが)「必要なし&完了」館の比率を、館種別・開館時期別に示した。比率は、館種(10区分)・開館時期(7区分)別の館数を分母に算出している(表23も同様)。「必要なし&完了」館の比率が30%を超えている(表22の数値に下線を付した)のは、2000年以降に開館した6館種の他は、1949年以前と50年代の理工、60年代開館の美術、動物園、70年代開館の自然史、理工、植物園の7項目のみである。1949年以前と50年代に開館した館では、数値のばらつきが大きい。リニューアルが行われた館、過去にリニューアルが行われたが再度必要になった館、リニューアルが行われていない館が混在しているのではないと思われる。80年代と90年代に開館した館では、どの館種でも比率が低い。開館から36年以上経過した70年代、46年以上経過した60年代になって比率が上がっている。開館から30年、40年以上経過しないとリニューアルが行われない館が多いことがわかる。

表22 リニューアルが必要ない館と完了した館(計)の比率 館種・開館時期別 N=2258

		N	リニューアルが必要ない館と完了した館(計)										
			総計	総合	郷土	美術	歴史	自然史	理工	動物園	水族館	植物園	動水植
開館時期	1949年以前	77	18.2%			12.5%	26.5%	16.7%	<u>100.0%</u>			25.0%	
	1950年代	101	14.9%	7.7%	16.7%	23.5%	15.2%		<u>50.0%</u>	8.3%	20.0%	25.0%	
	1960年代	156	23.1%		5.6%	<u>37.9%</u>	24.6%	25.0%	25.0%	<u>33.3%</u>	28.6%	14.3%	
	1970年代	318	17.3%	10.5%	12.7%	13.6%	19.3%	<u>33.3%</u>	<u>37.5%</u>	18.2%		<u>50.0%</u>	
	1980年代	603	13.8%		10.8%	18.4%	15.2%	12.5%	15.6%			20.0%	—
	1990年代	694	18.9%	11.1%	10.0%	19.8%	23.0%	19.4%	8.6%	16.7%	14.3%		
	2000年以降	309	<u>45.0%</u>	<u>20.0%</u>	<u>35.7%</u>	<u>46.0%</u>	<u>52.4%</u>	<u>36.4%</u>	<u>35.3%</u>		22.2%	<u>100.0%</u>	
総計		2258	20.9%	8.3%	11.9%	24.5%	24.4%	19.6%	20.4%	11.6%	13.2%	17.5%	0.0%

表23に、表22の内訳としてリニューアルが必要ない館と完了した館の比率を別々に示した。リニューアルが必要ない館は、2000年以降に開館した館でも、30%未満の館種がある。90年代以前は15%未満が多い。リニューアルが完了した館の比率は、50年代と60年代の美術、70年代以前の理工と植物園が高い。リニューアルが行われるのは、開館から30年、40年以上経過してからということが確認できる。

表23 リニューアルが必要ない館とリニューアルが完了した館の比率 館種・開館時期別 N=2258

		N	総計	総合	郷土	美術	歴史	自然史	理工	動物園	水族館	植物園	動水植
			リニューアルが必要ない館 (15%を超えているものに下線を付している)										
開館時期	1949年以前	77	7.8%				14.7%	<u>16.7%</u>					
	1950年代	101	3.0%	7.7%			3.0%				<u>20.0%</u>		
	1960年代	156	5.8%			6.9%	7.2%			<u>33.3%</u>	14.3%		
	1970年代	318	5.0%		4.8%	6.8%	5.5%					<u>25.0%</u>	
	1980年代	603	5.6%		8.1%	5.1%	6.2%		3.1%			<u>20.0%</u>	—
	1990年代	694	12.1%	5.6%	8.6%	9.6%	<u>15.4%</u>	<u>19.4%</u>	2.9%	<u>16.7%</u>	7.1%		
	2000年以降	309	<u>38.2%</u>	<u>10.0%</u>	<u>21.4%</u>	<u>37.9%</u>	<u>46.3%</u>	<u>36.4%</u>	<u>29.4%</u>		22.2%	<u>100.0%</u>	
総計		2258	12.0%	3.7%	7.4%	12.7%	14.9%	13.0%	6.8%	4.7%	9.4%	7.5%	0.0%
		N	リニューアルが完了した館 (15%を超えているものに下線を付している)										
			総計	総合	郷土	美術	歴史	自然史	理工	動物園	水族館	植物園	動水植
開館時期	1949年以前	77	10.4%			12.5%	11.8%		<u>100.0%</u>			<u>25.0%</u>	
	1950年代	101	11.9%		<u>16.7%</u>	<u>23.5%</u>	12.1%		<u>50.0%</u>	8.3%		<u>25.0%</u>	
	1960年代	156	<u>17.3%</u>		5.6%	<u>31.0%</u>	<u>17.4%</u>	<u>25.0%</u>	<u>25.0%</u>		14.3%	14.3%	
	1970年代	318	12.3%	10.5%	7.9%	6.8%	13.8%	<u>33.3%</u>	<u>37.5%</u>	<u>18.2%</u>		<u>25.0%</u>	
	1980年代	603	8.1%		2.7%	13.3%	9.0%	12.5%	12.5%				—
	1990年代	694	6.8%	5.6%	1.4%	10.2%	7.6%		5.7%		7.1%		
	2000年以降	309	6.8%	10.0%	14.3%	8.0%	6.1%		5.9%				
総計		2258	9.0%	4.6%	4.6%	11.8%	9.5%	6.5%	13.6%	7.0%	3.8%	10.0%	0.0%

(6) 老朽化とリニューアルの必要性についての認識の相互関係

1と2では、施設設備の老朽化の認識状況とリニューアルの必要性の認識状況を検討してきた。老朽化の認識とリニューアルの必要性の認識は基本的に連動するものと考えられるが、この2つの認識がどのような関係にあるのかを検証する。

表24のクロス集計表と表25の表（「不明」と無回答を除いた1917館分で作成）に、老朽化の認識状況とリニューアルの必要性の認識状況がどのような関係にあるかを示した。このデータからは、①施設設備が老朽化していると認識している度合いに応じて、リニューアルの必要性を認識している館が多くなること、②施設設備の老朽化を認識していない館の中にも、リニューアルの必要性を認識している館があること、③施設設備の老朽化を認識している館の中にも、リニューアルが必要ないと認識している館とリニューアルが完了していると認識している館があることの3点が確認できる。

施設設備の老朽化の認識状況についての質問項目とリニューアルの必要性の認識状況についての質問項目は、調査票の上では連続した質問になっていないことも影響しているのか、論理的に見れば、首尾一貫性がない回答も見られる。施設設備の老朽化を認識し、かつリニューアルの必要性を認識している館が、最も多いことは間違いない（表25のIの部分）。

表24 老朽化とリニューアルの必要性についての認識の相互関係 N=2258

	施設設備が老朽化している(認識状況)					総計	備考
	すごくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答		
リニューアル完了	必要なし	10	38	119	90	13	} 473
	完了	22	61	74	33	13	
リニューアルの必要性	建物設備が必要	558	272	67	10	35	} 1528
	設備は必要	127	245	118	29	19	
	建物は必要	12	26	2	4	4	
不明	不明	44	52	30	11	14	} 257
	無回答	20	27	15	2	42	
総計	793	721	425	179	140	2258	
備考(2区分の計)	1514		604				

表25 老朽化とリニューアルの必要性についての認識の相互関係 (マトリックス) N=1917

		老朽化の認識状況			
		老朽化している			
リニューアルの必要性	必要なし	II	(32館)	(697館)	I
		131館	(99館)	1240館	(543館)
	必要	316館	(193館)	(187館)	230館
		III	(123館)	(43館)	IV
		老朽化していない			
		老朽化の認識状況			
※老朽化状況(自己認識)は、程度により4段階に区分					

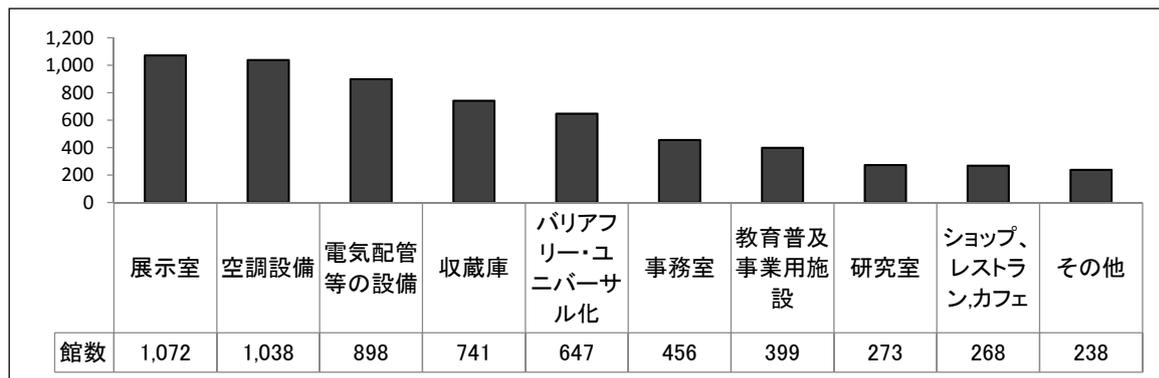
### 3 リニューアルが必要な施設設備

博物館総合調査では、リニューアルが必要と回答した館（1528 館）に、リニューアルが必要な施設設備を 10 の区分から選択する方式（複数回答）で質問している。回答を見ると、該当する項目数が少ない館から 10 項目全部に及ぶ館まである。

#### (1) 全般的な状況

表 26 に、リニューアルが必要と回答した 1528 館が、どのような施設設備についてリニューアルを必要としているかを示した（1528 館以外の館で回答があったものは除外している）。施設で多いのは、展示室や収蔵庫、設備で多いのは、空調設備、電気配管等の設備である。バリアフリー・ユニバーサル化も多い。

表 26 リニューアルが必要な施設設備の状況 ー回答の多い順番ー 館数 N=1528 （複数回答）



#### (2) 設置者別の状況

表 27 に、設置者別に、リニューアルが必要と回答した 1528 館の、リニューアルを必要としている施設設備の状況を示した。表 27 では、博物館総合調査の回答館全体についてリニューアルが必要な施設設備の状況を把握する意図から、回答館（2258 館）を分母に比率を算出している（表 28 と表 29 も同様）。紙幅の関係もあり、館数の多い公立のみ詳細な区分で数値を掲載した。リニューアルが必要な館が多い展示室、空調設備や電気配管等の設備を見ると、比率は、高い方から公立、国立、私立の順になっている。公立の中では、都道府県や市（区）の比率が高い。市（区）の中では、東京 23 区は低いが、指定都市や人口の多い市で高い。

表 27 リニューアルが必要な施設設備の状況 設置者別 比率 N=2258

設置者	N	リニューアルが必要な施設設備の比率 Nを分母に算出										
		展示室	収蔵庫	事務室	教育普及事業施設	研究室	ショップレストラン	空調設備	電気配管等の設備	バリアフリー・ユニバーサル化	その他	
国立	57	47.4%	<u>40.4%</u>	19.3%	19.3%	<u>24.6%</u>	10.5%	36.8%	33.3%	29.8%	12.3%	
公立	1,727	50.6%	34.3%	21.5%	19.4%	12.5%	11.4%	50.3%	43.0%	29.6%	11.3%	
都道府県	236	53.4%	31.8%	20.3%	22.0%	14.0%	16.5%	<u>58.5%</u>	<u>54.7%</u>	31.8%	16.1%	
市(区)	1,180	51.0%	35.6%	22.4%	20.2%	12.5%	11.6%	51.4%	42.3%	30.5%	10.6%	
公立館内訳	東京23区	34	23.5%	23.5%	8.8%	14.7%	2.9%	5.9%	47.1%	38.2%	20.6%	5.9%
	指定都市	121	51.2%	27.3%	21.5%	24.0%	8.3%	22.3%	53.7%	49.6%	<u>37.2%</u>	19.8%
	市(30万人以上)	153	52.3%	32.0%	18.3%	<u>24.2%</u>	11.8%	19.6%	51.0%	43.1%	30.1%	7.8%
	市(10万人以上)	340	<u>54.7%</u>	39.4%	<u>25.9%</u>	22.4%	14.4%	10.3%	51.2%	43.5%	30.9%	8.5%
	市(5万人以上)	299	51.5%	38.8%	23.4%	18.4%	14.0%	8.4%	51.8%	43.5%	28.4%	10.7%
	市(5万人未満)	233	48.1%	34.3%	21.0%	15.5%	11.6%	7.7%	51.1%	35.2%	30.9%	11.2%
町	269	48.3%	33.1%	20.1%	15.2%	11.9%	6.3%	40.9%	37.5%	25.3%	10.4%	
村	34	35.3%	23.5%	11.8%	8.8%	8.8%	5.9%	29.4%	26.5%	20.6%	2.9%	
その他	8	37.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	<u>25.0%</u>	50.0%	50.0%	25.0%	<u>50.0%</u>	
私立	474	36.3%	26.4%	15.6%	11.2%	9.1%	13.7%	31.2%	28.9%	24.9%	7.4%	
総計	2,258	47.5%	32.8%	20.2%	17.7%	12.1%	11.9%	46.0%	39.8%	28.7%	10.5%	

(注) 各施設設備で最も比率の高い区分の数値に下線を付している。

### (3) 館種別の状況

表 28 に、館種別に、リニューアルが必要と回答した 1528 館の、リニューアルを必要としている施設設備の状況を示した。リニューアルが必要な館が多い展示室は美術を除く 9 の館種で、空調設備は動物園を除く 9 の館種で、40%を超えている。電気配管等の設備は、全館種で 35%を超えている。総合と動水植物園の高さが際立っている。施設設備毎の比率が最も高い館種を見ると、総合が 5 項目、動水植物園が 4 項目ある。

表 28 リニューアルが必要な施設設備の状況 館種別 比率 N=2258

	N	リニューアルが必要な施設設備の比率 Nを分母に算出									
		展示室	収蔵庫	事務室	教育普及 事業施設	研究室	ショップレ ストラン	空調設備	電気配管 等の設備	バリアフリー ユニバーサ ル化	その他
総合	109	69.7%	<u>54.1%</u>	<u>36.7%</u>	<u>36.7%</u>	<u>33.9%</u>	20.2%	<u>67.9%</u>	54.1%	48.6%	16.5%
郷土	285	56.5%	44.6%	26.7%	21.4%	15.4%	8.4%	51.9%	44.6%	35.4%	10.9%
美術	473	38.3%	30.2%	15.0%	13.3%	8.7%	14.4%	46.9%	40.2%	24.7%	10.8%
歴史	1048	43.8%	32.1%	18.6%	14.3%	10.8%	8.3%	41.9%	35.1%	26.3%	8.3%
自然史	92	58.7%	29.3%	17.4%	27.2%	16.3%	12.0%	47.8%	42.4%	18.5%	9.8%
理工	103	57.3%	19.4%	17.5%	25.2%	9.7%	19.4%	50.5%	42.7%	32.0%	<u>18.4%</u>
動物園	43	62.8%	23.3%	34.9%	25.6%	4.7%	30.2%	30.2%	48.8%	39.5%	16.3%
水族館	53	49.1%	18.9%	26.4%	22.6%	18.9%	22.6%	43.4%	49.1%	26.4%	17.0%
植物園	40	47.5%	15.0%	20.0%	20.0%		17.5%	40.0%	37.5%	30.0%	12.5%
動水植物園	12	<u>83.3%</u>	25.0%	25.0%	25.0%	8.3%	<u>33.3%</u>	58.3%	<u>75.0%</u>	<u>58.3%</u>	16.7%
総計	2,258	47.5%	32.8%	20.2%	17.7%	12.1%	11.9%	46.0%	39.8%	28.7%	10.5%

(注) 各施設設備で最も比率の高い区分の数値に下線を付している。

### (4) 開館時期別の状況

表 29 に、開館時期別に、リニューアルが必要と回答した 1528 館の、リニューアルを必要としている施設設備の状況を示した。施設設備毎の比率が最も高い開館時期を見ると、1950 年代に 5 項目ある。1949 年以前と 70 年代に 2 項目ずつ、60 年代に 1 項目ある。リニューアルが必要な館が多い展示室と空調設備では、2000 年以降を除く全区分で 40%を超えている。収蔵庫は、70 年代が最も高く (47.8%)、80 年代も 40%を超えている。50 年代以前の 2 区分は、リニューアルが実施されたのか、70 年代よりも低い (38.6~39.0%)。電気配管等の設備は 2000 年以降を除く全区分で 30%を超えている。多くの区分で、開館後 15 年程度を経過すると、リニューアルが必要な館の比率が高くなることが確認できる。

表 29 リニューアルが必要な施設設備の状況 開館時期別 比率 N=2258

	N	リニューアルが必要な施設設備の比率 Nを分母に算出									
		展示室	収蔵庫	事務室	教育普及 事業施設	研究室	ショップレ ストラン	空調設備	電気配管 等の設備	バリアフリー ユニバーサ ル化	その他
1949年以前	77	57.1%	39.0%	27.3%	<u>28.6%</u>	19.5%	18.2%	48.1%	44.2%	42.9%	<u>13.0%</u>
1950年代	101	<u>62.4%</u>	38.6%	32.7%	24.8%	<u>22.8%</u>	<u>20.8%</u>	<u>53.5%</u>	<u>51.5%</u>	38.6%	12.9%
1960年代	156	54.5%	39.1%	<u>35.3%</u>	24.4%	16.7%	17.3%	42.9%	41.7%	39.7%	9.6%
1970年代	318	57.5%	<u>47.8%</u>	34.0%	26.1%	21.4%	15.4%	48.7%	48.7%	<u>46.2%</u>	11.9%
1980年代	603	54.4%	40.6%	22.2%	20.4%	13.8%	12.9%	52.7%	43.8%	34.7%	9.5%
1990年代	694	42.2%	24.4%	12.5%	12.8%	6.8%	9.2%	47.6%	39.2%	19.5%	11.1%
2000年以降	309	24.6%	14.6%	5.8%	6.1%	3.6%	4.9%	24.9%	18.1%	7.1%	9.1%
総計	2,258	47.5%	32.8%	20.2%	17.7%	12.1%	11.9%	46.0%	39.8%	28.7%	10.5%

(注) 各施設設備で最も比率の高い区分の数値に下線を付している。

### (5) リニューアルが必要な施設設備数の状況

これまで施設設備の10の区分別に、リニューアルの必要性を見てきた。博物館では、時間の経過とともに、多くの施設設備でリニューアルが必要になってくる。表30に、リニューアルが必要な施設設備の項目数別の館数を示した。

表30 リニューアルが必要な施設設備の項目数別の博物館数 N=1528

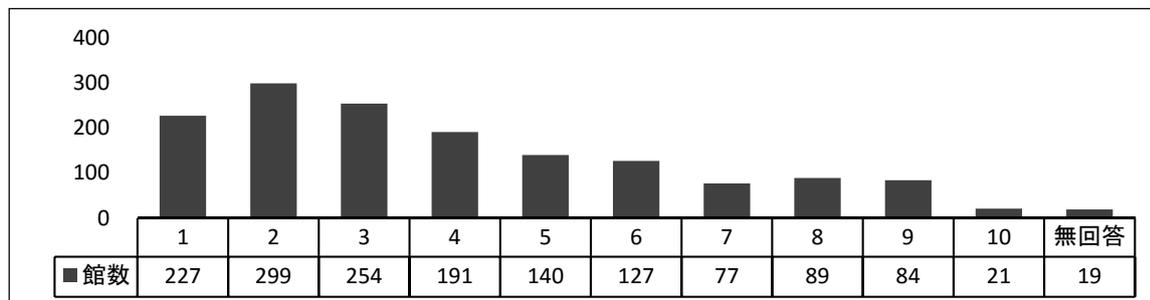


表31に、設置者別の状況を示した。リニューアルが必要な項目数が1から3までの館の比率（累計）は、国立52.5%、公立50.4%、私立54.0%、総計51.0%である。項目数が1から5までの館の比率（累計）は、国立72.5%、公立72.1%、私立75.7%、総計72.7%である。項目数が6から10までの館の比率（累計）が、どの区分でも20%を超えている（21.7~27.5%）。項目数が8から10までの館の比率（累計）は、国立12.5%、公立12.7%、私立12.5%、総計12.7%である。どの設置者区分でも、ほぼ同様の状態が見られる。

表31 リニューアルが必要な施設設備の項目数別の博物館数 設置者別（3区分） N=1528

		N	リニューアルが必要な施設設備の数										無回答
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
館数	国立	40	7	12	2	3	5	3	3	2	3		
	公立	1,225	173	238	206	149	117	106	68	76	64	16	12
	私立	263	47	49	46	39	18	18	6	11	17	5	7
	総計	1,528	227	299	254	191	140	127	77	89	84	21	19
比率	国立	40	17.5%	30.0%	5.0%	7.5%	12.5%	7.5%	7.5%	5.0%	7.5%		
	公立	1,225	14.1%	19.4%	16.8%	12.2%	9.6%	8.7%	5.6%	6.2%	5.2%	1.3%	1.0%
	私立	263	17.9%	18.6%	17.5%	14.8%	6.8%	6.8%	2.3%	4.2%	6.5%	1.9%	2.7%
	総計	1,528	14.9%	19.6%	16.6%	12.5%	9.2%	8.3%	5.0%	5.8%	5.5%	1.4%	1.2%

表32に、開館時期別の状況を示した。1949年以前から70年代までの4区分（2015年時点で開館後36年以上経過）では、8項目以上の“満身創痍”の館が20%を超えている（20.3%~24.1%）。80年代は12.0%、90年代は6.0%、2000年以降は4.3%、であり、70年代以前の区分で“満身創痍”の館の比率が大きくなっている。開館後30年程度を経過すると、施設設備の多くで老朽化が進行することがわかる。

表32 リニューアルが必要な施設設備の項目数別の博物館数 開館時期別（7区分） N=1528

		N	リニューアルが必要な施設設備の数										無回答
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
開館時期	1949年以前	59	13.6%	16.9%	15.3%	6.8%	11.9%	6.8%	6.8%	10.2%	10.2%		1.7%
	1950年代	79	17.7%	13.9%	7.6%	16.5%	8.9%	3.8%	6.3%	7.6%	12.7%	3.8%	1.3%
	1960年代	102	8.8%	8.8%	15.7%	13.7%	8.8%	11.8%	7.8%	10.8%	10.8%	1.0%	2.0%
	1970年代	233	11.2%	11.6%	13.7%	9.9%	8.6%	13.3%	8.2%	10.3%	9.0%	3.0%	1.3%
	1980年代	451	12.4%	17.7%	17.1%	14.6%	9.5%	10.2%	5.3%	5.1%	5.5%	1.3%	1.1%
	1990年代	465	16.8%	24.7%	18.9%	13.1%	10.1%	5.8%	3.4%	3.7%	1.7%	0.6%	1.1%
	2000年以降	139	25.9%	33.8%	18.7%	7.2%	5.0%	2.9%	0.7%	1.4%	2.2%	0.7%	1.4%
総計	1,528	14.9%	19.6%	16.6%	12.5%	9.2%	8.3%	5.0%	5.8%	5.5%	1.4%	1.2%	

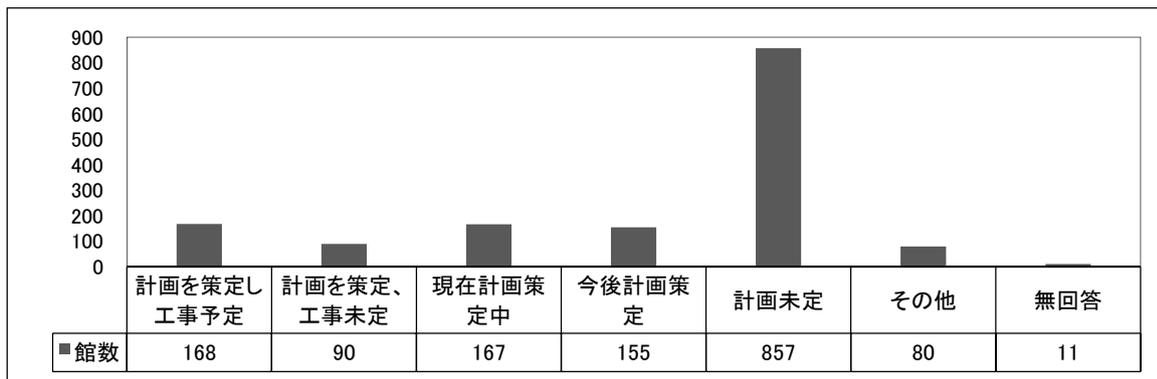
#### 4 リニューアルの取組状況

博物館総合調査の回答館（2258 館）のうち 1528 館（67.7%）が、施設設備のリニューアルが必要と回答している。4では、リニューアルが必要な 1528 館のリニューアルの取組状況を見ていく。

##### (1) 全般的な状況

表 33 に、1528 館のリニューアルの取組状況を示した。「リニューアル計画が策定されており、工事を予定している（以下「計画を策定し工事予定）」と回答した館は、168 館（11.0%）に過ぎない。「リニューアル計画については未定である（以下「計画未定）」と回答した館は 857 館（56.1%）もある。「今後リニューアル計画を策定することになっている（以下「今後計画策定）」と回答した 155 館（10.1%）を合計すると、計画がない館は 1012 館（66.2%）になる。老朽化への対応は著しく遅れており、老朽化の進行と財政収入減少のジレンマを解決する公共施設マネジメント〔4〕の取組が急がれる。

表 33 リニューアルの取組状況 N=1528



##### (2) 設置者別の状況

表 34 に、リニューアルの取組状況を、設置者別に示した。「計画を策定し工事予定」の館の比率は、3 区分とも 10% 台である。「計画未定」の館の比率は、国立は 37.5% であるが、公立 57.8%、私立 51.0% である。

表 34 リニューアルの取組状況 設置者別①（3 区分） N=1528

リニューアルが必要な建 物設備の区分	N	リニューアルの取組状況						
		計画を策定し 工事予定	計画を策定、 工事未定	現在計画 策定中	今後 計画策定	計画未定	その他	無回答
国立								
建物設備が必要	25	20.0%	12.0%	24.0%	8.0%	32.0%	4.0%	
設備は必要	12	16.7%		16.7%	16.7%	41.7%	8.3%	
建物は必要	3				33.3%	66.7%		
総計	40	17.5%	7.5%	20.0%	12.5%	37.5%	5.0%	
公立								
建物設備が必要	776	10.4%	5.4%	11.6%	10.7%	54.3%	7.1%	0.5%
設備は必要	418	10.8%	4.5%	7.7%	7.9%	65.8%	2.2%	1.2%
建物は必要	31	16.1%	16.1%	9.7%	12.9%	38.7%	6.5%	
総計	1,225	10.7%	5.4%	10.2%	9.8%	57.8%	5.4%	0.7%
私立								
建物設備が必要	141	14.2%	7.1%	14.2%	12.1%	44.0%	7.1%	1.4%
設備は必要	108	7.4%	10.2%	13.0%	10.2%	57.4%	1.9%	
建物は必要	14	14.3%			14.3%	71.4%		
総計	263	11.4%	8.0%	12.9%	11.4%	51.0%	4.6%	0.8%
総計								
建物設備が必要	942	11.3%	5.8%	12.3%	10.8%	52.1%	7.0%	0.6%
設備は必要	538	10.2%	5.6%	8.9%	8.6%	63.6%	2.2%	0.9%
建物は必要	48	14.6%	10.4%	6.3%	14.6%	50.0%	4.2%	
総計	1,528	11.0%	5.9%	10.9%	10.1%	56.1%	5.2%	0.7%

表 35 に、公立の 5 区分の状況を示した。「計画を策定し工事予定」の館の比率は、町が 6.7% で最も低い  
が、他の 4 区分でも 10% 台にとどまっている。「現在計画策定中」の館の比率も、最も高いその他で 16.7% に  
過ぎない。「計画未定」の館の比率は、都道府県 56.0%、市（区）56.6%、町 68.0%、村 43.8%、その他 16.7% で  
ある。公立のどの区分も、リニューアルの取組は極めて遅れている。

表 35 リニューアルの取組状況 設置者別② (公立・5区分) N=1225

	リニューアルが必要な 建物設備の区分	N	リニューアルの取組状況						無回答
			計画を策定し 工事予定	計画を策定、 工事未定	現在計画 策定中	今後 計画策定	計画未定	その他	
都道府県	建物設備が必要	102	8.8%	2.9%	18.6%	9.8%	49.0%	10.8%	
	設備は必要	69	14.5%	5.8%	4.3%	4.3%	66.7%	2.9%	
	建物は必要	4	25.0%	25.0%			50.0%		
	総計	175	11.4%	4.6%	12.6%	7.4%	56.0%	7.4%	
市(区)	建物設備が必要	555	11.0%	6.3%	9.9%	11.5%	53.3%	7.4%	0.5%
	設備は必要	274	11.7%	4.0%	9.1%	7.7%	65.0%	1.1%	1.5%
	建物は必要	21	14.3%	14.3%	14.3%	19.0%	33.3%	4.8%	
	総計	850	11.3%	5.8%	9.8%	10.5%	56.6%	5.3%	0.8%
町	建物設備が必要	108	7.4%	2.8%	13.0%	6.5%	66.7%	2.8%	0.9%
	設備は必要	65	4.6%	6.2%	6.2%	9.2%	70.8%	3.1%	
	建物は必要	5	20.0%				60.0%	20.0%	
	総計	178	6.7%	3.9%	10.1%	7.3%	68.0%	3.4%	0.6%
村	建物設備が必要	7	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%		
	設備は必要	8				37.5%	62.5%		
	建物は必要	1		100.0%					
	総計	16	12.5%	12.5%	6.3%	25.0%	43.8%	0.0%	0.0%
その他	建物設備が必要	4	25.0%		25.0%	25.0%	25.0%		
	設備は必要	2						100.0%	
	建物は必要								
	総計	6	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%
公立館計		1225	10.7%	5.4%	10.2%	9.8%	57.8%	5.4%	0.7%

表 36 に、市(区)の6区分の状況を示した。「計画を策定し工事予定」の館の比率は、5%台から20%を超えるものまであり、区分間に大きな差が見られる。「現在計画策定中」の館では、最も高い指定都市で18.0%、市(区)全体では9.8%にとどまっている。「計画未定」の館の比率は、3区分が40%台、1区分が50%台、2区分が60%台である。60%台の2区分は、人口5万人以上10万人未満の市と5万人未満の市である。表35と表36から、リニューアルの取組は、人口の少ない市と町で遅れていることがわかる。

表 36 リニューアルの取組状況 設置者別③ (市(区)・6区分) N=850

	リニューアルが必要な建物設備の区分	N	リニューアルの取組状況						無回答
			計画を策定し 工事予定	計画を策定、 工事未定	現在計画 策定中	今後 計画策定	計画未定	その他	
東京23区	建物設備が必要	8		12.5%			50.0%	37.5%	
	設備は必要	11	9.1%	9.1%		36.4%	36.4%	9.1%	
	建物は必要								
	総計	19	5.3%	10.5%	0.0%	21.1%	42.1%	21.1%	
指定都市	建物設備が必要	66	18.2%	4.5%	12.1%	6.1%	47.0%	12.1%	
	設備は必要	22	13.6%	9.1%	36.4%		40.9%		
	建物は必要	1	100.0%						
	総計	89	18.0%	5.6%	18.0%	4.5%	44.9%	9.0%	
市(30万人以上)	建物設備が必要	76	19.7%	10.5%	7.9%	11.8%	43.4%	6.6%	
	設備は必要	33	30.3%	3.0%	3.0%	9.1%	48.5%	3.0%	
	建物は必要								
	総計	109	22.9%	8.3%	6.4%	11.0%	45.0%	5.5%	
市(10万人以上)	建物設備が必要	157	5.7%	8.9%	12.1%	13.4%	51.0%	8.3%	0.6%
	設備は必要	85	8.2%	7.1%	8.2%	8.2%	65.9%	2.4%	
	建物は必要	8	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	50.0%		
	総計	250	6.8%	8.4%	10.8%	11.6%	56.0%	5.2%	
市(5万人以上)	建物設備が必要	148	10.8%	4.1%	9.5%	12.2%	58.1%	4.1%	1.4%
	設備は必要	66	10.6%	1.5%	1.5%	4.5%	78.8%	1.5%	
	建物は必要	5	20.0%	20.0%	20.0%		20.0%	20.0%	
	総計	219	11.0%	3.7%	7.3%	9.6%	63.5%	3.7%	
市(5万人未満)	建物・設備とも必要	100	9.0%	3.0%	8.0%	12.0%	62.0%	6.0%	
	設備は必要	57	7.0%		14.0%	7.0%	71.9%		
	建物は必要	7		14.3%	14.3%	42.9%	28.6%		
	総計	164	7.9%	2.4%	10.4%	11.6%	64.0%	3.7%	
市(区)館計		850	11.3%	5.8%	9.8%	10.5%	56.6%	5.3%	0.8%

### (3) 館種別の状況

表 37 に、リニューアルの取組状況を、館種別に示した。「計画を策定し工事予定」と「現在計画策定中」に回答した館の状況を見ると、レクリエーション施設としての性格があり、集客に力を入れている動物園、水族館、動水植物園が相対的に高い（合計で 34.4%～45.5%）。美術（合計で 29.4%）、理工（合計で 26.6%）がそれに続く。一方、地域博物館としての性格が強い郷土が最も低い（合計で 10.7%）。合計が 25%を下回っているのは、総合（23.2%）、植物園（23.1%）、自然史（19.7%）、歴史（19.7%）、郷土（10.7%）の 5つの館種である。「計画未定」の館の比率は、館種間に大きなばらつきが見られ、最も高い郷土と最も低い水族館では、40ポイント近い差がある。郷土と歴史のリニューアルの取組の遅れは、2つの館種が全国各地にあり、館数も多いことから、博物館界に大きな影響をもたらすことが懸念される。

表 37 リニューアルの取組状況 館種別（10 区分） N=1528

	N	リニューアルの取組状況						
		計画を策定し 工事予定	計画を策定、 工事未定	現在計画 策定中	今後 計画策定	計画未定	その他	無回答
総合	95	9.5%	3.2%	13.7%	10.5%	52.6%	10.5%	
郷土	214	5.1%	5.6%	5.6%	10.7%	64.5%	7.5%	0.9%
美術	309	13.9%	8.1%	15.5%	9.1%	49.5%	2.9%	1.0%
歴史	661	10.1%	4.5%	9.5%	10.3%	60.7%	4.2%	0.6%
自然史	66	9.1%	7.6%	10.6%	10.6%	59.1%	3.0%	
理工	79	16.5%	5.1%	10.1%	10.1%	49.4%	7.6%	1.3%
動物園	32	18.8%	18.8%	15.6%	6.3%	31.3%	6.3%	3.1%
水族館	35	22.9%	8.6%	14.3%	17.1%	25.7%	11.4%	
植物園	26	11.5%	7.7%	11.5%	7.7%	53.8%	7.7%	
動水植物園	11	18.2%		27.3%	9.1%	36.4%	9.1%	
総計	1528	11.0%	5.9%	10.9%	10.1%	56.1%	5.2%	0.7%

### (4) 開館時期別の状況

表 38 に、リニューアルの取組状況を、開館時期別に示した。「計画を策定し工事予定」と「現在計画策定中」に回答した館の状況を見ると、1949 年以前に開館した館の比率が最も高い（合計で 30.5%）。また、50 年代に開館した館が次に高い（合計で 26.6%）。早い時期に開館した館で、リニューアル計画が他の区分より進捗していることが見てとれる。他の区分では、20.1%から 22.6%の範囲内にあり、どの区分でも、リニューアルの取組が進捗していないことがわかる。「計画未定」の館の比率は、60 年代に開館した館のみ 40%台で、他の 6 区分は、いずれも 50%台である。

表 38 リニューアルの取組状況 開館時期別（7 区分） N=1528

	N	リニューアルの取組状況						
		計画を策定し 工事予定	計画を策定、 工事未定	現在計画 策定中	今後 計画策定	計画未定	その他	無回答
1949年以前	59	10.2%	5.1%	20.3%	10.2%	52.5%	1.7%	0.0%
1950年代	79	19.0%	6.3%	7.6%	5.1%	53.2%	7.6%	1.3%
1960年代	102	11.8%	4.9%	8.8%	20.6%	40.2%	12.7%	1.0%
1970年代	233	10.3%	6.4%	10.7%	10.3%	55.8%	6.0%	0.4%
1980年代	451	9.8%	6.0%	10.9%	8.2%	59.9%	5.1%	0.2%
1990年代	465	11.8%	5.4%	10.8%	10.8%	56.1%	3.9%	1.3%
2000年以降	139	8.6%	7.2%	11.5%	9.4%	59.0%	3.6%	0.7%
総計	1528	11.0%	5.9%	10.9%	10.1%	56.1%	5.2%	0.7%

### (5) リニューアルが必要な施設設備の数とリニューアルの取組状況

3 での考察により、リニューアルが必要な施設設備を多数もつ博物館があることがわかった。ここでは、リニューアルが必要な施設設備の多寡によって、リニューアルの取組状況に違いがあるかを見ていく。

表 39 に、リニューアルが必要な施設設備の数の区分別に、リニューアルの取組状況を示した。

表 40 には、リニューアルの取組の区分の中で、リニューアルが進行していることを示す 2つの区分（「計

画を策定し工事予定」と「現在計画策定中」の合計値を示した。

リニューアルが必要な施設設備が1項目の場合は、「計画を策定し工事予定」の館の比率が10の区分の中では最も高い(18.1%)。「現在計画策定中」の館の比率と合計したのも最も高い(27.8%)。合計した比率は、リニューアルが必要な施設設備の項目数が4で最も低くなり(16.8%)、リニューアルが必要な施設設備の項目数が7以上になると、20%台になる。さすがに施設設備の項目数が10になると「計画を策定し工事予定」の比率は高くなる(14.3%)。

老朽化の進行が初期の段階では、ある程度リニューアルが行われているが、初期の段階でリニューアルが行われなかった館は、その後もリニューアルができない状態が続く。その後、更に老朽化が進行し、事態が深刻になって、ようやくリニューアル計画が策定される。このようなリニューアル事情が、データから見えてくる。日本では、「計画的に施設の点検・診断や修繕を行う予防保全体制の確立には至っていない」[5]。リニューアルが必要な施設設備の項目数が8以上の満身創痍になっても、「計画未定」の館が38.1%から57.3%もある。博物館のリニューアルでは、“待てば海路の日和あり”という故事はあてはまらないようである。

表 39 リニューアルの取組状況 —リニューアルが必要な施設設備の項目数別の取組状況— 比率

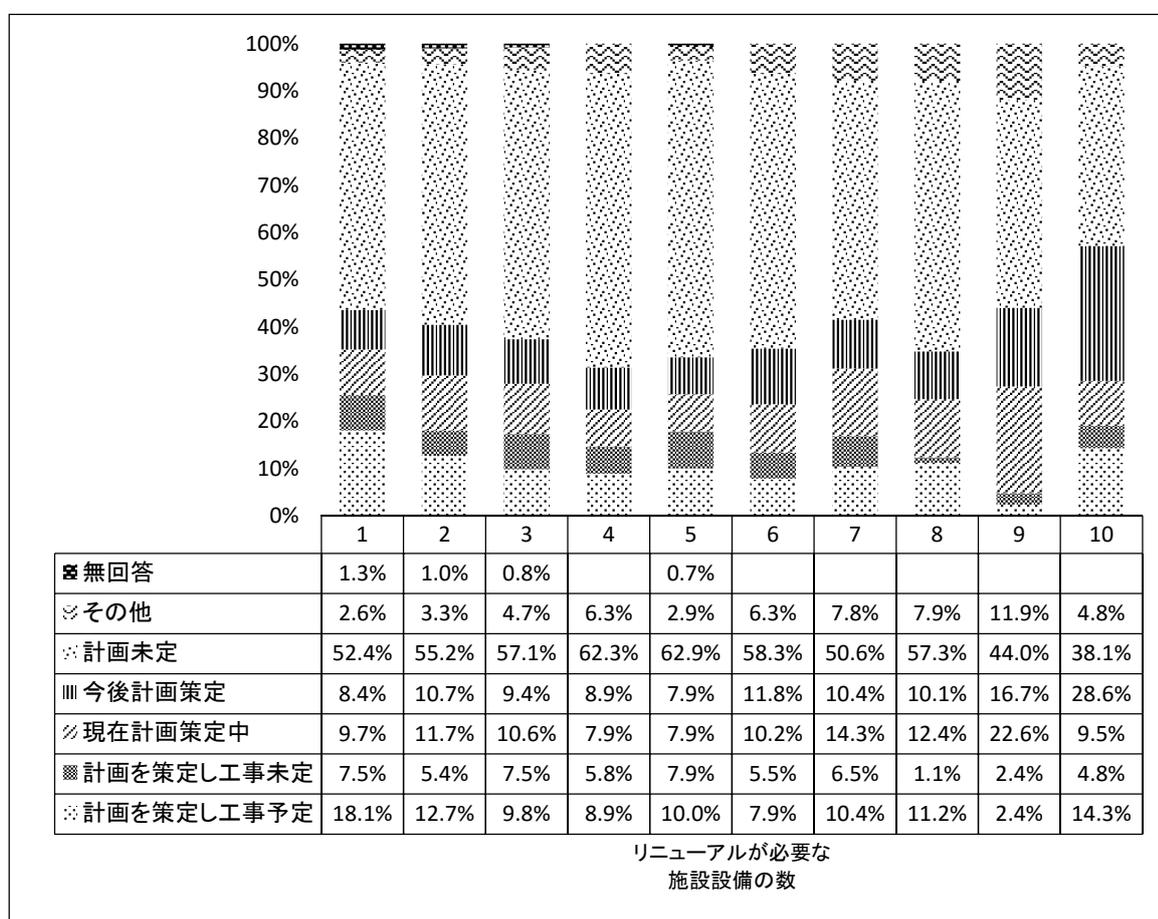


表 40 リニューアルの進捗状況 —リニューアルが必要な施設設備の項目数別の状況— 比率

	リニューアルが必要な施設設備の数									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
計画を策定し工事予定 ①	18.1%	12.7%	9.8%	8.9%	10.0%	7.9%	10.4%	11.2%	2.4%	14.3%
現在計画策定中 ②	9.7%	11.7%	10.6%	7.9%	7.9%	10.2%	14.3%	12.4%	22.6%	9.5%
合計(①+②)	27.8%	24.4%	20.5%	16.8%	17.9%	18.1%	24.7%	23.6%	25.0%	23.8%

(注) 表 39 の取組状況のうち、リニューアルが進捗している区分である2項目を取り出し、比率を合計したもの

## 5 リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の特性

博物館総合調査から、回答館（2258館）のうちリニューアルが必要な館が1528館、必要ない館が270館、完了した館が203館あることがわかった。リニューアルが必要な1528館のリニューアルの取組状況を見ると、「計画を策定し工事予定」が168館、「計画を策定し工事未定」が90館、「現在計画策定中」が167館、「今後計画策定」が155館、「計画未定」が857館、「その他」が80館、無回答が11館であった。

5では、経営資源の保有状況や事業成果の達成状況を比較することにより、リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の特性を明らかにする。

### (1) リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の経営資源 — 職員数 —

表41に、館種別とリニューアルの必要性の有無・リニューアルの取組状況による類型別に、職員総数、常勤職員数、常勤の学芸系職員数の平均人数を示した。このデータから、リニューアルが完了している館（表中「リニューアル完了」と表記）の職員数は相対的に少ないことがわかる。リニューアルが必要な館のリニューアルの取組状況による類型では、取組が遅れている類型区分（「計画を策定し工事未定」「今後計画策定」「計画未定」の3区分）の館の職員数が少なく、取組が進んでいる区分、とりわけ「計画を策定し工事予定」の館の職員数が多い傾向がある。但し、館種全体でリニューアルの取組が遅れている郷土や歴史には、この傾向はない。

表41 リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の経営資源 — 職員数 —

	リニューアルが必要な館 リニューアルの取組状況区分別							リニューアルが必要ない館				
	取組が進捗		取組が遅れている			その他	無回答	総計	理由別の類型		総計	
	計画を策定し 工事予定	現在計画 策定中	計画を策定、 工事未定	今後 計画策定	計画未定				施設設備が新 しく必要ない	リニューアル 完了		
①職員総数-常勤職員と非常勤職員の合計-(平均人数) ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している												
館種	総合	16.33	16.38	16.00	16.20	13.51	11.70		14.35	18.50	<u>7.80</u>	12.56
	郷土	<u>4.27</u>	4.75	6.83	5.50	4.49	5.31	3.00	4.78	3.05	4.50	3.58
	美術	14.29	17.69	13.44	8.79	<u>7.66</u>	13.56	6.33	10.80	8.78	9.04	8.90
	歴史	8.42	9.20	13.36	11.71	6.72	9.75	12.25	8.09	5.66	<u>6.49</u>	5.98
	自然史	51.33	8.14	10.75	5.00	10.44	<u>3.00</u>		13.17	6.64	5.33	6.18
	理工	14.54	11.50	14.25	<u>9.50</u>	14.37	26.17	8.00	14.42	19.33	13.43	15.20
	動物園	48.67	60.20	<u>15.50</u>	16.50	22.50	129.00	25.00	38.34	4.50	22.00	15.00
	水族館	51.00	44.75	11.00	11.67	31.89	76.25		37.71	28.50	<u>10.50</u>	22.50
	植物園	<u>4.33</u>	22.67	5.00	21.50	9.08	4.50		10.50	4.50	9.67	7.60
	動水植物園	45.00	19.50		44.00	20.25	<u>5.00</u>		25.90			
	総計	16.05	14.84	12.37	10.55	8.01	16.71	9.73	10.61	7.08	7.93	7.45
②常勤職員数(平均人数) ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している												
館種	総合	11.3	13.2	14.0	12.2	9.4	7.8		10.4	16.0	<u>5.6</u>	10.2
	郷土	<u>2.9</u>	3.1	5.1	2.9	3.0	3.1	1.5	3.1	2.1	3.6	2.6
	美術	10.9	13.6	10.1	6.3	<u>5.6</u>	10.6	5.7	8.1	6.5	7.1	6.8
	歴史	6.4	7.0	8.0	7.9	4.6	7.0	7.0	5.6	3.9	<u>4.5</u>	4.1
	自然史	38.4	7.1	9.3	3.6	7.4	<u>2.5</u>		9.4	5.6	3.8	5.0
	理工	11.7	8.1	9.5	<u>4.9</u>	10.3	22.7	4.0	10.6	17.7	12.0	13.8
	動物園	41.2	50.8	15.0	<u>13.5</u>	18.3	129.0	25.0	33.9	4.0	21.0	14.2
	水族館	40.3	43.3	<u>9.0</u>	10.2	28.6	18.0		26.8	28.3	<u>9.0</u>	21.8
	植物園	4.3	20.7	<u>1.5</u>	15.5	7.7	2.5		8.6	3.5	9.0	6.8
	動水植物園	45.0	19.5		44.0	20.0	<u>4.0</u>		25.7			
	総計	12.4	11.9	8.9	7.3	5.8	11.5	7.0	7.9	5.3	6.1	5.7
③常勤の学芸系職員数(平均人数) ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している												
館種	総合	10.0	8.3	6.0	9.0	8.2	9.0		8.5	18.5	<u>2.0</u>	10.3
	郷土		2.0	3.0	2.0	1.7	<u>1.5</u>		1.8	1.0	2.6	1.8
	美術	6.1	7.1	4.9	4.1	<u>3.7</u>	7.3	2.0	5.0	4.0	4.1	4.0
	歴史	4.0	5.1	6.9	<u>3.3</u>	3.5	4.9	9.0	4.0	2.9	3.5	3.1
	自然史	27.5	3.0	6.0	2.3	7.8	<u>0.0</u>		9.1	7.0	2.7	4.8
	理工	6.3	5.7	12.0	<u>2.7</u>	7.8	15.8		7.9	9.0	6.5	7.3
	動物園	27.0	55.0	11.3	<u>10.0</u>	11.0	14.0		22.9		16.0	16.0
	水族館	20.8	16.0	11.0	<u>2.0</u>	37.0	13.0		16.3	17.3		17.3
	植物園					5.3	<u>0.0</u>		4.0		9.0	9.0
	動水植物園	36.0			22.0	<u>9.0</u>			22.3			
	総計	7.9	8.3	6.4	4.2	4.5	6.6	6.7	5.7	4.4	4.1	4.3

(注) リニューアルの必要性についての問に「不明」と回答した館と無回答館は除いて作表している(表41から44まで同様)。

(2) リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の経営資源 ー建物面積・資料・年間支出額ー

表 42 に、リニューアルの必要性の有無・リニューアルの取組状況による類型と館種別に、建物延床面積、人文・自然系資料数、年間支出総額（平成 24 年度）の平均値を示した。このデータから、リニューアルが完了している館の各項目の数値は相対的に小さいことが確認できる。リニューアルが必要な館のリニューアルの取組状況による類型では、取組が遅れている類型区分（「計画を策定し工事未定」「今後計画策定」「計画未定」の 3 区分）の館の数値が小さく、取組が進捗している「計画を策定し工事予定」の館の数値が大きい傾向がある。リニューアルの取組が進捗している「計画を策定し工事予定」の館は、一部の館種を除き、相対的に経営資源に恵まれ、「計画未定」の館は、経営資源に恵まれていない傾向が見られる。

表 42 リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の経営資源 ー建物面積・資料・年間支出額ー

	リニューアルが必要な館 リニューアルの取組状況区分別							リニューアルが必要な館				
	取組が進捗		取組が遅れている			その他	無回答	総計	理由別の類型		総計	
	計画を策定し 工事予定	現在計画 策定中	計画を策定し 工事未定	今後 計画策定	計画未定				施設設備が新 しく必要ない	リニューアル 完了		
	④建物延床面積(平均面積 m <sup>2</sup> ) ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している											
館種	総合	3,813	5,901	8,196	4,546	4,334	4,905		4,695	11,339	<u>2,673</u>	6,525
	郷土	<u>984</u>	1,185	1,803	1,145	1,380	1,321	1,130	1,343	1,126	1,007	1,084
	美術	6,020	7,557	3,821	2,868	<u>2,768</u>	5,490	1,411	4,134	4,197	3,268	3,754
	歴史	2,277	2,692	4,511	3,926	1,789	3,278	4,188	2,340	2,086	<u>1,756</u>	1,961
	自然史	17,450	2,573	3,620	2,018	3,219	<u>1,740</u>		4,302	3,485	2,332	3,254
	理工	6,565	6,998	<u>4,029</u>	4,148	4,345	10,932	760	5,398	6,255	5,427	5,717
	動物園	23,575	20,502	14,863	<u>2,699</u>	5,420	28,567		14,487	11,979	2,952	7,465
	水族館	8,411	12,850	<u>2,286</u>	3,033	7,456	8,260		7,304	9,237	4,591	8,463
	植物園	1,585	5,523	1,442	7,253	3,385	<u>634</u>		3,360	3,031	2,611	2,791
	動水植物園	18,662	4,248		6,855	9,055	<u>2,530</u>		7,362			
	総計	5,251	5,382	4,322	3,282	2,378	4,706	2,400	3,347	3,026	2,487	2,803
	⑤人文・自然系資料数(点と件等の違いは無視して合計した数) ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している											
館種	総合	43,359	80,685	135,062	207,513	118,977	339,978		139,664	274,022	<u>22,261</u>	134,154
	郷土	46,873	23,116	37,543	37,333	14,587	31,751	1,510	21,618	10,134	<u>11,221</u>	10,550
	美術	4,686	6,576	5,677	7,210	4,819	3,208	174	5,267	1,437	<u>3,011</u>	2,197
	歴史	26,552	37,911	44,048	22,623	<u>21,593</u>	24,002	13,433	24,828	14,216	31,776	21,076
	自然史	724,492	21,890	128,465	<u>18,214</u>	108,141	3,064		143,843	75,431	20,901	57,254
	理工	1,908	51,794	<u>213</u>	386	710	91,907	0	12,939	1,925	1,850	1,875
	動物園	5,573	1,348	461	<u>199</u>	571	935	0	1,591	100	396	278
	水族館	8,656	21,421	9,464	17,758	14,213	13,093		14,045	5,790	<u>2,000</u>	4,707
	植物園	50,533	83,340	<u>150</u>	4,100	52,698	1,258		44,246	0	8,000	4,571
	動水植物園	<u>390</u>	17,907		4,792	8,158	400		8,393			
	総計	44,721	30,033	33,263	31,771	26,262	65,293	5,206	31,567	16,892	18,679	17,659
	⑥年間支出総額(平成24年度) ー千円ー ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している											
館種	総合	105,870	210,656	267,568	152,353	91,025	102,883		122,431	316,170	<u>63,743</u>	232,028
	郷土	<u>12,677</u>	24,432	63,242	31,803	20,085	28,541	41,492	24,553	20,404	13,370	17,825
	美術	316,281	260,123	197,340	111,173	<u>98,957</u>	213,629	59,912	169,011	175,077	154,786	165,854
	歴史	77,377	105,295	107,013	133,612	<u>45,844</u>	104,267	128,063	69,716	47,115	52,141	49,075
	自然史	788,111	58,851	98,699	<u>36,753</u>	68,765	71,476		145,159	77,401	48,348	67,717
	理工	154,140	110,743	142,908	<u>70,357</u>	120,479	425,759	27,029	144,934	239,669	165,615	186,185
	動物園	723,061	957,748	356,115	<u>181,461</u>	448,371	221,339	236,996	496,246	1,183,635	397,429	711,911
	水族館	583,654	722,924	<u>39,971</u>	122,817	506,638	286,728		409,796	580,940	171,924	478,686
	植物園	<u>1,812</u>	266,529	21,660	180,043	150,291	40,978		141,285	92,892	30,123	77,200
	動水植物園	1,120,817	348,077		557,085	412,800	<u>264,000</u>		541,007			
	総計	233,540	191,241	149,350	114,419	67,430	128,147	97,352	112,304	102,852	93,292	98,867

(3) リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の事業成果 ー入館者数・自己収入ー

表 43 に、リニューアルの必要性の有無・リニューアルの取組状況による類型と館種別に、平成 24 年度の入館者数と自己収入額の平均値を示した。リニューアルが完了している館の数値は相対的に低い。リニューアルが必要な館の中では、取組が遅れている類型区分（「計画を策定し工事未定」「今後計画策定」「計画未定」の 3 区分）の館の入館者数と自己収入額が少ない。「計画を策定し工事予定」の館の数値は高い。

表 43 リニューアルが完了している館と取組が遅れている館の事業成果の状況 ー入館者数・自己収入ー

	リニューアルが必要な館 リニューアルの取組状況区分別								リニューアルが不要な館			
	取組が進捗		取組が遅れている			その他	無回答	総計	理由別の類型		総計	
	計画を策定し 工事予定	現在計画 策定中	計画を策定し 工事未定	今後 計画策定	計画未定				施設設備が新 しく必要ない	リニューアル 完了		
①平成24年度の入館者数(平均人数) ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している												
館種	総合	63,584	199,590	176,028	47,501	42,990	55,382		70,523	222,455	<u>23,572</u>	123,013
	郷土	<u>8,885</u>	34,690	9,066	13,853	12,814	13,626	23,947	13,958	20,313	14,971	18,371
	美術	206,339	74,983	151,688	52,673	<u>40,169</u>	94,025	16,737	86,681	110,860	64,642	88,577
	歴史	72,988	58,063	75,875	85,724	<u>30,103</u>	70,112	40,022	47,512	32,099	38,759	34,752
	自然史	474,963	137,099	75,286	31,948	58,137	<u>5,078</u>		100,081	59,610	71,094	63,663
	理工	122,314	112,147	184,724	<u>71,554</u>	119,592	289,466	24,616	133,094	258,941	172,741	201,474
	動物園	684,066	276,888	1,205,985	<u>148,664</u>	348,090	695,064	275,628	538,738	498,151	225,127	334,336
	水族館	248,902	185,477	925,238	<u>166,840</u>	359,554	910,655		437,842	880,690	267,149	705,392
	植物園	81,397	<u>20,863</u>	127,624	270,832	121,248	21,158		113,160	270,743	84,404	164,264
	動水植物園	755,499		<u>39,276</u>	740,195	266,890	163,555		391,287			
	総計	162,282	89,327	168,034	73,696	45,022	132,085	51,841	81,325	81,197	60,466	72,248
②平成24年度の自己収入額(平均金額) 一円一 ※各館種で平均人数が最も少ない区分(無回答と「施設設備が新しく必要ない」を除く)に下線を付している												
館種	総合	20,356	33,205	79,437	<u>8,474</u>	10,710	9,550		20,801	66,565	31,175	51,398
	郷土	<u>395</u>	16,629	997	2,598	2,326	1,863	0	2,957	907	541	767
	美術	66,672	105,096	124,983	91,216	<u>37,851</u>	49,909	6,751	65,762	71,009	78,556	74,454
	歴史	23,674	40,712	35,287	21,278	<u>13,841</u>	23,114	7,107	19,212	9,874	14,696	11,713
	自然史	239,056	8,686	34,644	1,147	15,079	<u>315</u>		39,467	40,359	13,991	31,569
	理工	26,512	17,841	<u>14,306</u>	21,254	43,882	161,891	14,869	43,129	88,026	21,358	40,966
	動物園	297,788	316,291	521,040	44,169	238,116	<u>42,879</u>		277,038	244,467	59,801	133,667
	水族館	611,833	<u>5,202</u>	555,206	42,931	514,170	384,819		399,859	803,830	62,837	618,582
	植物園	1,325	<u>250</u>	43,070	72,288	30,222	32,235		31,868	8,165	6,522	7,507
	動水植物園	213,898		<u>35,270</u>	130,237	390,767	26,889		221,853			
	総計	84,130	68,209	81,931	32,091	24,467	44,549	7,056	41,523	38,589	31,929	35,830

リニューアルの取組において、入館者がどのような意味を持っているかー入館者数が多い館ほど、リニューアルの取組が進捗しているのかーを検証する。表 44 に、平成 24 年度の入館者数を回答した 2186 館を入館者数の多い順に上位 5%、6-10%、11-20%、21-50%、51-100%の 5 つに区分し、リニューアルの必要性・リニューアルの取組状況の類型別に平均入館者数を算出した。リニューアルの取組区分のうち「計画未定」を見ると、入館者の少ない区分になるに応じて「計画未定」館の比率が高くなっている。リニューアルの取組に当たって、入館者数が影響を及ぼしている可能性があるとしてよい。

表 44 入館者数の区分別(5 区分) のリニューアルの必要性の有無とリニューアルの取組状況

	リニューアルが必要な館 リニューアルの取組状況区分別								リニューアルが不要な館			
	取組が進捗		取組が遅れている			その他	無回答	総計	理由別の類型		総計	
	計画を策定し 工事予定	現在計画 策定中	計画を策定し 工事未定	今後 計画策定	計画未定				施設設備が新 しく必要ない	リニューアル 完了		
比率	上位5%の館(109館)	<u>19.3%</u>	18.3%	6.4%	4.6%	16.5%	6.4%	0.0%	71.6%	15.6%	4.6%	20.2%
	上位10%(6-10%)の館(110館)	14.5%	11.8%	6.4%	7.3%	<u>24.5%</u>	6.4%	0.9%	71.8%	10.0%	12.7%	22.7%
	上位20%(11-20%)の館(218館)	6.9%	8.3%	7.8%	11.0%	<u>32.6%</u>	6.0%	0.0%	72.5%	11.0%	10.1%	21.1%
	上位50%(21-50%)の館(656館)	8.7%	9.1%	3.7%	7.5%	<u>38.7%</u>	3.8%	0.8%	72.3%	9.9%	10.5%	20.4%
	上位100%(51-100%)の館(1093館)	4.8%	4.8%	3.1%	6.0%	<u>43.2%</u>	2.6%	0.4%	64.9%	13.3%	8.1%	21.4%
	入館者数無回答の館(72館)	8.3%	5.6%	1.4%	4.2%	20.8%	0.0%	1.4%	41.7%	11.1%	5.6%	16.7%
	総計	7.4%	7.4%	4.0%	6.9%	38.0%	3.5%	0.5%	67.7%	12.0%	9.0%	20.9%
平均入館者数	上位5%の館(109館)	847,844	979,284	413,812	846,694	664,333	855,602		800,869	762,109	558,696	715,879
	上位10%(6-10%)の館(110館)	254,133	224,879	236,733	226,746	231,406	263,349	275,628	238,325	241,429	244,569	243,187
	上位20%(11-20%)の館(218館)	121,809	126,079	129,463	126,086	118,402	129,608		122,879	114,207	119,700	116,834
	上位50%(21-50%)の館(656館)	39,509	37,705	38,907	33,828	34,387	35,685	44,840	35,773	32,843	38,644	35,830
	上位100%(51-100%)の館(1093館)	6,410	6,707	7,696	7,132	5,428	5,610	4,646	5,865	5,422	5,791	5,562
	入館者数無回答の館(72館)											
	総計	162,282	168,034	89,327	73,696	45,022	132,085	51,841	81,325	81,197	60,466	72,248

(注) 入館者数の5つの区分毎に、最も比率が高いものに下線を付している。

## 6 まとめ

本稿では、博物館の老朽化の現状とリニューアルの取組状況について分析してきた。我が国の博物館では、リニューアルの取組が遅れていることが明らかになった。1970年代以降に開館した多くの博物館で、今後老朽化が進行していくことを考えれば、老朽化が今まで以上に大きな問題になることは確実である。

### (1) 自治体の老朽化対策に関連する新たな動向

我が国では、高度成長期から1991年のバブル崩壊を経て、大きく社会環境が変化しつつある。社会環境の変化は、長期間に渡って(2070年頃まで)続く人口の減少期に突入したこと、少子化と高齢化が同時進行していること、阪神・淡路大震災から東日本大震災に至る未曾有の大災害を経験し、国土が脆弱な基盤にあること、グローバル化と情報化が進展しつつあること、国と自治体の財政が悪化し、膨大な債務を抱えて、これまでのような財政出動が難しくなっていることなどである。

老朽化問題への対応を見ると、「公共施設白書」を作成し、公共施設の将来像を描き、住民と認識を共有化する取組を行う自治体が見られるようになった。このような先進的な取組を踏まえて、2010年代になって、社会インフラや公共施設の再編問題が、国をあげての政策課題になってきた。2014年4月22日付の文書で、総務省は全国の自治体に公共施設等総合管理計画の策定を要請した。この要請を受け、全国の自治体のほぼ全部が、2016年度末までに公共施設等総合管理計画を策定すると表明している。公共施設等総合管理計画は、自治体が所管する社会インフラや公共施設全般にかかわるもので、公共施設全体の中で個々の施設の在り方を検討するものである。公共施設を、どのように存続させていくのか、統廃合するのか、利用者や地域住民が公共施設の存続・統廃合の意思決定にどのようにかかわっていくのか、自治体は難しい課題に取り組むことになる。約7割の館が老朽化を認識している博物館には、極めて大きな影響がある計画である。

### (2) 我が国の博物館の現状と課題

表45に、博物館の現状と課題を、老朽化問題を中心に整理した。博物館の老朽化対策は、長期的な視野に立って、館の運営実態を十分把握した上で検討される必要がある。平成の市町村合併により、余剰・重複施設を抱える自治体もある。文化施設の統廃合の理由は、「(市町村合併よりも)老朽化を要因としている方が多い」[6]との調査結果もある。相次ぐ災害の発生の中、建物の耐震性が不足していることが明らかになった施設や運営の不備や人口減少などにより、利用状況が芳しくない施設も見られる。

表45 社会環境の変化と博物館の課題 —公立博物館を中心に整理—

博物館をとりまく社会環境の変化			
経年変化による老朽化	財政事情の悪化	災害の発生に伴う 耐震基準の改定	新たなニーズ等への対応 (情報化・グローバル化・地域創生等)
人口構成の変化(少子化と高齢化)と 人口減少 → 「消滅可能性都市」の問題		国の政策 自治体への経費抑制請と公共施設等総合管理計画の策定の要請	
博物館の課題 公共施設としての博物館			
博物館は存続できるか		博物館は、資料を適切に保管できるか	
財政悪化に伴う 経営資源の縮小への対応	施設設備のリニューアル 市町村合併の影響(重複施設等)	収蔵庫の狭隘化と保存環境の 悪化	コレクションの管理能力の低下
博物館の廃止・統合・他施設との複合化・ 規模や機能の縮小が提起されることへの対応		地域社会の崩壊の中での文化資源の管理 博物館の運営体制の弱体化と寄贈の増加	
①老朽化への取組 ②博物館が果たす役割の再定義 ③新たな定義に即した大胆な改革の実行			

博物館の設置者と運営に関係している者には、自館について、これまでの投資とその効果を把握し、「投資の廃棄物化と非効率な利用」[7]が進んでいないか、真摯に総括し、総括結果を公表することから始めることを期待したい。博物館がどのような理念と使命をもって開館し、どのような事業を行い、成果は何であったのかを整理した上で、老朽化への取組、今後の在り方を決定することが重要である。整備してきた施設が、「ストックか、負債か」[8]は、様々な角度から慎重に判断される必要がある。人口が少ないから、今後人口が減るから、博物館が提供してきた公的サービスはカットしてよいという論理で決定

されてはならない。統廃合になる場合には、博物館がこれまで果たしてきた機能を、どのようにして維持するのか、住民に提供してきたサービスをどのように保証するのか、利用者と地域住民の参画を得て検討が行われる必要がある。公共施設の再編計画を策定するに当たっては、国から「財政計画と人口変動の今後の見通し」に基づいて策定することが要請されているが、「人口減少という一要素のみで、地域再編のあり方を議論」する「人口減少社会」論には問題があるとの指摘〔9〕がある。施設が提供してきたサービスの内容と質を十分把握した上で、地域における施設の在り方を検証しながら、公共施設等総合管理計画が策定されることが重要である。急激に拡大していった施設が、多くの問題点を抱えながら存続している。人口減少と財政難を理由に、歴史を閉じる施設がでてくる可能性もある。拡大と縮小、この背反する動きが、どのようにして生まれてきたのか、この問いを中心に置いて、博物館の現状を分析し、今後の在り方を議論していく必要がある。拡大はブームであったが、縮小がブームになることは避けなければならない。

**謝辞** 本研究は JSPS 科研費 25282079 の助成を受けたものです。記して謝意を表します。

## 引用文献

- [1] 小松幸夫監修、『公共施設マネジメントハンドブック』,7p, 日刊建設通信新聞社, 2014
- [2] 文部科学省,『平成 23 年度社会教育調査報告書』, ①304P, 375P, ②304P, 375P, ③306P, 376P のデータを基に筆者が作成
- [3] 文部科学省,『地方教育費調査報告書』平成 10 年度から 25 年度会計年度分のデータを基に筆者が作成, 1999～2014
- [4] 小松幸夫監修、『公共施設マネジメントハンドブック』,8P, 日刊建設通信新聞社, 2014
- [5] 日本建築学会編,『公共施設の再編 計画と実践の手引き』,73P, 森北出版株式会社, 2015
- [6] 小林真理編,『行政改革と文化創造のイニシアティブ 新しい共創の模索』,32P, 美学出版, 2013
- [7] 高寄昇三,『「地方創成」で地方消滅は阻止できるか』,146P, 公人の友社, 2015
- [8] 山下祐介,『地方消滅の罫ー「増田レポート」と人口減少社会の正体』,89P, 筑摩書房, 2014
- [9] 森浩之,『自治の分岐ー公共施設の再編問題』,住民と自治(通巻 626 号),10P, 自治体問題研究所, 2015

## 参考文献

- (1) 井手英策編,『雇用連帯社会 脱土建国家の公共事業』,岩波書店, 2011
- (2) 宇都正哲・植村哲士・北詰恵一・浅見泰司,『人口減少下のインフラ整備』, 東京大学出版会, 2013
- (3) 寛裕介,『人口減少×デザイン』, 英知出版, 2015
- (4) 小島卓弥・八上俊宏・金城雄一著,『公共施設が劇的に変わる公共ファシリティマネジメント』, 学陽書房, 2012
- (5) 小島卓弥編著,『ここまでできる実践公共ファシリティマネジメント』, 学陽書房, 2014
- (6) 時事通信社編,『全論点 人口急減と自治体消滅』, 時事通信社, 2015
- (7) 上念司,『地方は消滅しない』, 宝島社, 2015
- (8) 内藤伸浩,『人口減少時代の公共施設改革』, 時事通信社, 2015
- (9) 長澤成次,『社会教育施設再編の現段階』, 住民と自治(通巻 626 号), 自治体問題研究所, 2015
- (10) 日本博物館協会,『平成 20 年度文部科学省委託事業 日本の博物館総合調査研究報告書』, 2009
- (11) 根本祐二,『朽ちるインフラ』, 日本経済新聞社, 2011
- (12) 野村総合研究所,『社会インフラ 次なる転換』, 東洋経済新報社, 2011
- (13) 藤村龍至,『批判的工学主義の建築 ソーシャル・アーキテクチャーをめざして』, NTT出版, 2014
- (14) 北海道総合研究調査会,『地域人口減少白書 全国 1800 市町村地域戦略策定の基礎データ 2014-2018』, 2014
- (15) 増田寛也編著,『地方消滅』, 中央公論社, 2014
- (16) 増田寛也・富山和彦著,『地方消滅 創生戦略篇』, 中央公論社, 2015
- (17) 矢作弘,『縮小都市の挑戦』, 岩波書店, 2014
- (18) 山岡淳一郎,『インフラの呪縛ー公共事業はなぜ迷走するのか』, 筑摩書房, 2014
- (19) 米田雅子,『田中角栄と国土建設』, 中央公論新社, 2003